

総合プログラム

(公社) 日本実験動物学会通常総会 (学会賞授賞式および受賞講演)

5月22日(木)

13:30-15:30

第1会場：コンベンションホール(コンベンションセンター3F ホールA1-A3)

理事長：小倉 淳郎(理化学研究所バイオリソース研究センター)

■功労賞

安居院 高志 元会員(北海道大学名誉教授)

■奨励賞

L1-1 異種脾島移植のための重症免疫不全マウスを背景とした新規糖尿病モデルマウスの樹立

○中野 堅太

国立国際医療研究センター

L1-2 実験動物の3Rsに貢献できる非侵襲的なデバイス開発

○塚本 晃海

実中研マーモセット医学生物学研究部応用発生学研究室

■2024年 Experimental Animals 最優秀論文賞

Ivabradine ameliorates cardiomyopathy progression in a Duchenne muscular dystrophy model rat
イバブラジンはデュシェンヌ型筋ジストロフィーモデルラットにおける心筋症の進行を抑制する

栃内 亮太、木村 公一、雑賀 彪、藤井 渉、森田 啓行、中西 弘毅、水流 功春、関澤 信一、
山内 啓太郎、桑原 正貴

Establishment and visual analysis of CBA/J-*Pde6b*^{Y347Y/Y347X} and C3H/HeJ-*Pde6b*^{Y347Y/Y347X} mice
CBA/J-*Pde6b*^{Y347Y/Y347X} と C3H/HeJ-*Pde6b*^{Y347Y/Y347X} マウスの樹立と視覚解析

進導 美幸、寺尾 美穂、高田 修治、一ノ瀬 実、松坂 恵美、横井 匡、東 範行、水野 聖哉、
津村 秀樹

Validation of the anesthetic effect of a mixture of remimazolam, medetomidine, and butorphanol in three mouse strains

レミマゾラムベシル塩酸を含むマウス用三種混合バランス麻酔薬の評価

渡邊 正輝、二階堂 優子、佐々木 宣哉

特別講演 1

5月21日(水) 13:30-14:30

第1会場：コンベンションホール(コンベンションセンター 3F ホールA1-A3)

座長：長尾 静子(藤田医科大学)

PL-1 iPS細胞由来腎オルガノイドと疾患モデル動物を用いた難治性腎疾患に対する新規治療薬の開発

○長船 健二

京都大学iPS細胞研究所

特別講演 2

5月22日(木) 15:45-16:45

第1会場：コンベンションホール(コンベンションセンター 3F ホールA1-A3)

座長：長尾 静子(藤田医科大学)

PL-2 高磁場MRIによる低侵襲イメージング: *In vivo*実験医学研究への応用

○末松 誠^{1,2)}

¹⁾実中研、²⁾慶應義塾大学

シンポジウム 1 実験動物感染症対策委員会企画

5月21日(水) 9:15-11:35

第2会場：セカンドホール(交流センター 3F 会議ホール)

「アデノ随伴ウイルスを知ろう！試験研究利用と動物実験施設での管理」

座長：宮本 陽子(協和キリン)
中村 紳一郎(麻布大学)

アデノ随伴ウイルス(AAV)は、パルボウイルスの一属で、アデノウイルスによるヘルパー依存型の性質を有しています。元来、免疫反応も弱いことなどから、ウイルスの骨格タンパクとともに標的分子を組換えることにより、ウイルスベクターとして基礎生物学、基礎医学、遺伝子治療等に利用されています。実験動物飼育の現場では、遺伝子組換え実験としての拡散防止措置、接種実験動物は逸走防止への対応、死体処置への対応が必要とされます。

しかし、各種動物実験従事者はAAVに関する正しい知識を学ぶ機会が少ない中で現場対応しているのが実情です。飼育室の拡散防止措置のための区画割、飼育室の収容率の設定などはそれぞれの施設によって異なるのが実情のようです。

このシンポジウムではまず、AAVの生物学的性状や研究利用に関する基礎知識をご講演いただき、実際の研究利用の実例、アカデミアと民間での実験施設管理の実例を紹介いただきます。最後に、すでにAAVを用いた遺伝子治療が実用化される中、製品の特性と臨床での適用方法によって多様な非臨床試験について、有害事例を含めてご講演いただきます。

いずれの講演内容も現場へ還元していただき、そして適正なAAV実験管理の一助となれば幸いです。

S1-1 アデノ随伴ウイルス(AAV)の生物学的特性とベクターとしての利用：基礎から応用へ

○岡田 尚巳

東京大学医科学研究所

S1-2 非ヒト霊長類の神経回路解析へのアデノ随伴ウイルスベクターの利用

○井上 謙一

京都大学ヒト行動進化研究センター

S1-3 信州大学動物実験施設におけるアデノ随伴ウイルスベクター使用実験の管理

○山中 仁木

信州大学基盤研究支援センター

S1-4 AAV動物実験の実際(民間)

○下西 学

株式会社ケー・エー・シー技術支援室

S1-5 アデノ随伴ウイルスベクター製品の開発にあたっての非臨床安全性評価

○直田 みさき

独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)

シンポジウム 2 大会企画 I

5月21日(水)

14:45-17:15

第1会場：コンベンションホール(コンベンションセンター 3F ホールA1-A3)

「先端発生工学技術を用いた実験動物研究」

座長：小林 俊寛(自然科学研究機構 生理学研究所)
岩田 悟(中部大学)

外来遺伝子をもつトランスジェニックマウスの誕生から約半世紀、その間における発生工学技術の進展は目覚ましく、実験動物研究への貢献は計り知れない。本シンポジウムでは若手研究者各位により、発生工学技術開発の最前線、およびそれら技術を駆使して作製されたユニークなモデル動物を用いた最新の研究成果をご紹介いただく。岩田先生、三浦先生には染色体再構成、ターゲットトランスジェニック技術といった新規の遺伝子改変マウス作製技術を、宮脇先生、磯谷先生には異種由来の遺伝子および臓器をもつモデルマウスの開発とその応用をご紹介いただく。また生殖をキーワードとして、井上先生、小林先生には遺伝子改変ラットを活用した生殖内分泌研究および生殖細胞の試験管内作製についてご紹介いただく。本シンポジウムに登場する新規の技術や実験手法、得られた知見を元に新たなアイデアの創出に繋がれば幸いである。

S2-1 ゲノム安定性制御を鍵とした染色体工学の進展

○岩田 悟^{1,2,3,4)}

¹⁾中部大学・実験動物教育研究センター、²⁾中部大学・生命健康科学部・生命医科学科、

³⁾中部大学・応用生物学部、⁴⁾中部大学・AI数理データサイエンスセンター

S2-2 インテグラーゼを用いたマウスタargetトランスジェニック技術の展開

○三浦 浩美¹⁾、中村 彩花²⁾、Gurumurthy B Channabasavaiah³⁾、大塚 正人¹⁾

¹⁾東海大学医学部基礎医学系分子生命科学、²⁾東海大学生命科学統合支援センター、

³⁾University of Nebraska Medical Center

S2-3 ゲノム編集マウスを使ったイヌの遺伝性疾患の病態解明

○宮脇 慎吾^{1,2)}

¹⁾岐阜大学応用生物科学部共同獣医学科獣医外科学研究室、

²⁾岐阜大学高等研究院One Medicine トランスレーショナルリサーチセンター動物医科学研究開発部門

S2-4 受精卵を操り多能性幹細胞を用いた異種間キメラで臓器を作る

○磯谷 綾子¹⁾、村田 大和¹⁾、川寄 優¹⁾、由利 俊祐^{1,2)}

¹⁾奈良先端科学技術大学院大学、²⁾国立長寿医療センター

S2-5 遺伝子改変ラットを駆使した排卵中枢制御メカニズム研究の最前線

○井上 直子、上野山 賀久、東村 博子

名古屋大学大学院生命農学研究科動物生殖科学研究室

S2-6 ラットを用いた生殖細胞発生を理解とその試験管内再構築

○小林 俊寛^{1,2)}

¹⁾自然科学研究機構生理学研究所、²⁾東京大学医科学研究所

シンポジウム 3 厚生労働科学特別研究事業

5月21日(水)

14:45-17:15

第2会場：セカンドホール(交流センター 3F 会議ホール)

「日本におけるカニクイザル等(非ヒト霊長類)の需要と供給の現状把握と不足見込み数の推計並びに今後の検討・提言に向けた研究報告」

座長：塩谷 恭子(国立循環器病研究センター 研究所)
橋本 道子((株)アステラス製薬)

カニクイザル等の(非ヒト霊長類)は、ワクチン、医薬品等の研究開発で利用され、我々の健康に多大な恩恵を与えてきた。新型コロナウイルス感染症のパンデミックをきっかけにワクチン・治療薬開発の緊急性が増し、基礎開発研究に用いられるカニクイザル等の需要が拡大したことは想像に難くない。さらに、同時期に、主要な供給国である中国がカニクイザルの輸出を停止したことから、本邦におけるカニクイザルの流通が停滞、価格の高騰や供給不足の事態に陥った。製薬企業やアカデミアの会員からカニクイザルを不可欠とする開発や学術研究に支障をきたしているとの声が寄せられたことを受け、日本実験動物学会は、ワーキングチームを発足させ、課題の把握と解決を目的として情報の共有化を試みた。この取り組みは、厚生労働科学特別研究事業として採択されたことから、本シンポジウムでは、その調査研究の結果をまとめて報告する。

S3-1 カニクイザル供給の現状と影響：COVID-19 パンデミック下の調査結果と今後の課題

○鈴木 睦

協和キリン株式会社研究本部トランスレーショナルリサーチ研究所

S3-2 海外におけるマカクザルの需要と供給

○池田 琢朗

理化学研究所生命機能科学研究センター

S3-3 遺伝子改変霊長類を用いたヒト多発性嚢胞腎の疾患モデリング

○依馬 正次

滋賀医科大学動物生命科学センター、幹細胞・ヒト疾患モデル研究分野

S3-4 カニクイザルの国内生産・供給体制を構築するための提案

○山海 直

医薬基盤・健康・栄養研究所

「2025 JALAS-KALAS 合同シンポジウム」

座長：Sun Shin Yi (College of Veterinary Medicine, Konkuk University)
吉木 淳(理研バイオリソース研究センター)

ライフサイエンス研究は、ヒトやモデル動物のゲノム情報の充実に加え、最先端のゲノム操作技術や単一細胞レベルでの網羅的な遺伝子発現解析技術の発展により、著しい進歩を遂げています。また、公的データベースに蓄積された膨大な解析データセットがバイオインフォマティクス技術によって統合され、機械学習や人工知能を活用することで新たな知見の創出が進んでいます。

本JALAS-KALAS合同シンポジウムでは、JALASおよびKALASがそれぞれ推薦した2名ずつ、計4名の優れた研究者が登壇し、実験動物科学における分子生物学とバイオインフォマティクス応用の最前線について講演します。発表内容は、大規模ノックアウトマウスの表現型解析に向けた革新的な計算ツール、がん研究における高度なCRISPRベースの機能ゲノミクス、生物医学研究を支えるマウスゲノム変異データベースの強化、さらに神経変性疾患のプロテオミクスバイオマーカーを発見する新しい機械学習アプローチなど、多岐にわたります。

本シンポジウムでは、CRISPRゲノム編集、単一細胞シーケンシング、構造多型解析、機械学習など、多様な技術的アプローチを統合し、疾患メカニズムの解明や新たな治療戦略の理解を深めることに焦点をあてます。これらの発表は、現代の実験動物科学における分子生物学的アプローチと計算機解析の組合せの有効性を実証し、より正密で再現性の高い研究成果の基盤となることを示しています。

S4-1 TSUMUGI: a novel tool for identifying gene modules from KO mouse phenotypic data

○ Akihiro Kuno^{1,2}, Taito Taki³, Seiya Mizuno²

¹Department of Anatomy and Embryology, Institute of Medicine, University of Tsukuba,

²Laboratory Animal Resource Center, University of Tsukuba,

³Ph.D Program in Human Biology, University of Tsukuba

S4-2 Integrating advanced genomic platforms for functional genomics in mouse models

○ Jun Won Park

Department of Laboratory Animal Medicine, College of Veterinary Medicine, Seoul National University

S4-3 Enhancements of the mouse genome variation database MoG⁺ for supporting advanced biomedical research

○ Toyoyuki Takada¹, Daiki Usuda¹, Tatsuya Kushida¹, Nobutaka Mitsuhashi², Yuki Moriya², Hirokazu Chiba², Takanori Amano³, Masaru Tamura⁴, Atsushi Yoshiki⁵, Atsushi Toyoda⁶, Hideki Noguchi⁷, Takeya Kasukawa⁸, Hiroshi Masuya¹

¹Integrated Bioresource Information Division, RIKEN BRC, ²Database Center for Life Science, ROIS,

³Next Generation Human Disease Model Team, RIKEN BRC,

⁴Mouse Phenotype Analysis Division, RIKEN BRC, ⁵Experimental Animal Division, RIKEN BRC,

⁶Comparative Genomics Laboratory, NIG, ⁷Center for Genome Informatics, ROIS,

⁸Laboratory for Large-Scale Biomedical Data Technology, RIKEN IMS

S4-4 Machine learning-based discovery of proteomic biomarkers for neurodegenerative disorders using animal models

○ Sun Shin Yi

Department of Anatomy, College of Veterinary Medicine, Konkuk University

「疾患モデル動物が切り拓く脳機能障害のメカニズム」

座長：久米 利明(富山大学)
永井 拓(藤田医科大学)

疾患モデル動物は、特定の疾患を模倣するように遺伝的または環境的に操作された動物であり、ヒトの疾患研究において不可欠なツールである。本シンポジウムでは、認知症、脳梗塞、うつ病、統合失調症や薬物依存症などの脳機能障害が認められる代表的な疾患を対象に、モデル動物を用いた研究の最新の成果について5名の研究者が講演する。また、これらのモデル動物を用いることで得られた新たな知見が、治療法の開発や疾患の予防にどのように貢献するのかについても示す。さらに、今後の研究課題や技術的な課題についても触れ、疾患モデル動物研究の未来展望を議論する。

S5-1 $A\beta$ の立体構造に着目した毒性機序解明とAD治療戦略への展望

○久米 利明

富山大学学術研究部薬学・和漢系応用薬理学研究室

S5-2 脳虚血障害における細胞応答と治療標的の探索

○宝田 美佳、堀 修

金沢大学医薬保健研究域医学系神経解剖学

S5-3 うつ病モデル動物を用いた予防・診断・治療戦略

○毛利 彰宏^{1,3,4)}、國澤 和生^{1,3,4)}、鍋島 俊隆^{2,3,4)}

¹⁾藤田医科大学大学院医療科学研究科レギュラトリーサイエンス、

²⁾藤田医科大学大学院医療科学研究科健康医学創造共同研究部門、

³⁾藤田医科大学精神・神経病態解明センター、⁴⁾NPO医薬品適正使用推進機構

S5-4 マウスの精神行動におけるグリア型グルタミン酸トランスポーターの機能的役割に関する研究

○内田 美月^{1,2)}

¹⁾名古屋大学医学部附属病院薬剤部、²⁾名城大学薬学部病態解析学Ⅰ

S5-5 依存症モデル動物を用いた治療薬の開発

○永井 拓

藤田医科大学精神・神経病態解明センター神経行動薬理学研究部門

「腎疾患のモデル動物：開発と挑戦」

座長：角田 茂(東京大学)

吉木 淳(理研バイオリソース研究センター)

本シンポジウムでは、遺伝子改変マウスの開発と腎機能解析、疾患バリエーション導入モデルマウスの病態評価、アルポート症候群モデルマウスを用いた創薬研究、ネコを用いた進行性腎臓病に対するAIMを標的とした創薬開発、さらにボリューム電子顕微鏡による糸球体の3D超微形態解析など、多角的なアプローチによる研究成果を共有する。これらの研究は、腎疾患の病態メカニズム解明から治療法開発まで、基礎研究の臨床応用への橋渡しを目指すものである。モデル動物を用いた研究の課題と将来の挑戦について、幅広い視点から議論したい。

S6-1 腎臓疾患の解明に向けたモデルマウス開発の試み

○佐々木 宣哉

北里大学獣医学部実験動物学研究室

S6-2 疾患バリエーション導入モデルマウスにおける腎機能解析と病態評価

○天野 孝紀

理化学研究所バイオリソース研究センター次世代ヒト疾患モデル研究開発チーム

S6-3 アルポート症候群モデルマウスの病態解析と創薬への応用

○甲斐 広文

熊本大学薬学部

S6-4 ネコをモデルとした重度腎臓病に対するAIM 創薬開発

○宮崎 徹

一般社団法人AIM医学研究所

S6-5 ボリューム電顕を活用した糸球体の3D超微形態解析

○市村 浩一郎

順天堂大学大学院医学研究科解剖学・生体構造科学

「欧米における動物福祉の規制概要と飼養管理」

座長：武井 信貴子(イナリサーチ)

渡邊 秀徳(JTクリエイティブサービス)

現在、国内でも動物愛護管理法の改正に関する議論が進んでいますが、主な論点は3Rsの義務化と実験動物飼養保管施設の動物取扱業化です。これらは、実験動物福祉の推進と動物実験の透明性向上を目的とした制度として検討されています。それでは、海外ではどのような制度が導入されているのでしょうか。欧米を中心に、法律における3Rsの取り扱いと透明性向上のための制度について、動物法の専門家にご紹介いただきます。

次に、動物福祉に関する海外の製薬企業の動向について取り上げます。国や地域によって動物福祉に関する法律や規則が異なることは多くの方がご存じかと思います。実験動物福祉に関しては、いくつかの国際的な基準がありますが、一部の地域や国では、国際的な基準以上の対応が求められることもあります。複数の国や地域で動物実験を行う製薬企業が、自社の求める動物福祉水準を満たすために行っている取り組み（マルセイユ宣言）について紹介します。

最後に、マルセイユ宣言のような海外の製薬企業の取り組みが日本に与える影響について考察します。特に影響を受けやすいのは受託研究機関（CRO）です。国内のCROがこのような海外の製薬企業の動向にどのように対応しているのか、具体的な飼育管理の方法を含めてご紹介いただきます。

S7-1 欧米の実験動物福祉関連法：3Rsと透明性確保に関する法を中心に

○本庄 萌

長崎大学環境科学部

S7-2 マルセイユ宣言：グローバル製薬企業が示す動物福祉のスタンダード

○磯部 剛仁

中外製薬株式会社研究本部

S7-3 CROにおける欧州基準での実験動物飼育管理の紹介

○鳥飼 祐介

株式会社新日本科学安全性研究所

「古典遺伝学・発生生物学で終わらない！ショウジョウバエ研究の最前線」

座長：佐々木 隼人(北里大学)
長沼 佑季(アステラス製薬)

ショウジョウバエは高校生物の教科書にも載っている知名度の高い実験生物であるにも関わらず、その特性や研究応用について知らない方は多いのではないのでしょうか。ショウジョウバエモデルは古くからの応用分野、すなわち古典遺伝学および発生生物学にとどまらず、現在、様々な分野で活用されているのです。また、生命科学研究におけるショウジョウバエの利用は、哺乳類の代替(Replacement)として3Rsへの貢献が期待できます。

本シンポジウムでは、分子生物学から創薬研究への応用まで、様々な分野におけるショウジョウバエを用いた研究についてご講演いただき、その有用性や応用分野について理解を深める機会としたいと考えています。

S8-1 体サイズの変化に応じた内分泌ホルモン量のスケーリング機構

○西村 隆史

群馬大学生体調節研究所

S8-2 ショウジョウバエ腸管を用いた組織恒常性と環境応答の理解に向けて

○中嶋 悠一郎

東京大学大学院薬学系研究科遺伝学教室

S8-3 ショウジョウバエが切り拓くがん研究の新たな地平

○園下 将大

北海道大学遺伝子病制御研究所

「動物試験における獣医学的ケアのあれこれ」

座長：鈴木 睦(日本製薬工業協会／協和キリン)
渡部 一人(日本製薬工業協会)

動物試験を適正に実施し目的とする成果を導くためには、動物が身体的にも心理的にも適正な状態で供試される必要がある。そのために、動物に与える苦痛・苦悩をできるかぎり低減できるように3Rs(Refinement)に配慮することが重要である。そのアプローチとして、飼育環境・飼養管理、実験計画・実験操作、獣医学的ケアを適正に提供することが求められるが、苦痛や痛みを取り除くための獣医学的ケアは大変重要な位置づけにあり、その適正な実行が強く望まれている。

獣医学的ケアとして飼育動物の傷病の予防・治療、感染症の予防、疼痛／麻酔管理等が行われるが、研究内容、動物種等の違いによりケアの内容には多様な対応方法があると思われる。

本シンポジウムでは製薬、CRO、大学等のアカデミアの各機関において、実際に獣医学的ケアがどのように行われているのか、現状、課題等を紹介いただき、皆さんと共有・議論できる機会になればと考えている。

S9-1 動物試験における獣医学的ケアの求めるもの

○小山 公成

株式会社ケー・エー・シー技術ソリューション部

S9-2 製薬企業における獣医学的ケアの実際(管理獣医師の立場から)

○黒木 宏二

日本たばこ産業株式会社

S9-3 製薬企業における獣医学的ケアの実際～試験責任者の立場から～

○重見 稚紗

千寿製薬株式会社研究開発本部

S9-4 CROにおける獣医学的ケア

○川島 良介

株式会社新日本科学

S9-5 アカデミアにおける獣医学的ケアの実際

○森松 正美

北海道大学大学院獣医学研究院実験動物学教室

シンポジウム 10 日本実験動物技術者協会共催

5月23日(金)

13:30-15:30

第2会場：セカンドホール(交流センター 3F 会議ホール)

**「動物福祉を探究する新たな視点 第2弾！
～動物行動学の視点から実験動物技術を評価する～」**

座長：渡邊 利彦(中外製薬)
大羽 沙弥佳(日本クレア)

動物実験に関する技術は日々の工夫を積み重ね、携わる人も気づかないような動物の Well-being に寄与する取り組みが行われている。これらの取り組みは実験の精度や結果の再現性を左右する重要な側面もあり、行動、生理、生物学、獣医学などの多角的な視点で評価していくことが重要である。特に実験動物の分野では行動学的な評価については更なる取り組みが望まれる。

本シンポジウムでは、動物園動物の分野における行動学を元にした飼養や健康管理の進歩の紹介を通じて、実験動物技術の前進にヒントとなる動物行動学的な評価の基本から実践を学ぶ機会としたい。また、実験動物施設における馴化や環境エンリッチメントの具体的な事例紹介を元に、その事例について登壇者と参加者とともに動物行動学的な評価や改善方法について意見交換を行いたい。

このシンポジウムを通じて、実験動物に関する日常業務の中にも Well-being に寄与する取り組みがあることに気づき、その取り組みを科学的に評価することの重要性を学ぶ機会としてほしい。

共催シンポジウム趣旨説明

○中野 洋子

日本実験動物技術者協会

S10-1 動物園における事例：動物のニーズを知りケアを洗練する仕組みづくり

○荒井 雄大

盛岡市動物公園 ZOOMO

S10-2 アニマル・ウェルフェアと動物行動学

○出口 善隆

岩手大学農学部動物科学・水産科学科

S10-3 ハンドリングチューブの検討で実施した行動学的評価とその課題

○宮城 太輔

株式会社ケー・エー・シー

S10-4 日本クレア(株)技術部における環境エンリッチメントの取り組み

○奥村 浩

日本クレア株式会社技術部

S10-5 パネルディスカッション

『環境エンリッチメントや動物の取り扱いにおける動物の反応の適切な解釈や評価について』

LAS セミナー 1

5月21日(水)

9:15-11:15

第3会場(交流センター 3F 第3会議室)

「巷で話題のAIを使う ― 実験動物学のDX ―」

座長：小沢 学(東京大学 医科学研究所)

坂本 晃海(公益財団法人実中研)

磯谷 綾子(奈良先端科学技術大学院大学)

人工知能(Artificial Intelligence: AI)は、かつてはSFの世界観を持つ夢のような技術でしたが、2022年に対話型AIのChatGPTが一般公開されて以来、様々なAIツールが日常に浸透し、広く活用されてきています。また、2024年のノーベル物理学賞、化学賞には、AI技術の構築やAI技術を用いた研究が選ばれ、科学の分野においても欠かせない技術となってきました。

このことは、実験動物学の分野でも例外ではなく、AI技術を実験動物学の分野に取り入れ、これまでに得られてきた、またはこれから獲得する膨大なデータを効率的、かつ自動的に解析していくことは、今後、必要不可欠になることが予想されます。

かつてのAIは、使いこなすためにはプログラム言語を操る必要があり、動物実験を主とするウェット研究者が苦手にすることが多かったドライ解析技術でした。しかし、ChatGPTをはじめとする自然言語を用いた対話型AIシステムの進化により、むしろウェット研究者がドライ解析を始める際のハードルを大きく引き下げる役割も果たすようになってきています。

本セミナーでは、ChatGPTを含めた最先端のAI技術をどのように実験動物学の分野に組み込み、AI技術や機械学習を活用してどのようなことができているのかについて、動物実験を自動化(DX化)している事例や、対話型AIによるサポート例について、ご講演いただきます。

AI入門者の方々には、自身の携わる研究や動物施設の管理運営にぜひ活用していただきたい。

LAS1-1 動物実験や飼育管理への対話型AI活用の試み ～対話型AIの可能性を探る～

○小澤 直光

久留米大学

LAS1-2 対話型AIを用いたプラスミドベクターの設計の自動化

○森 秀人

大阪大学

LAS1-3 サルの表情解析を自動化する挑戦：直面する課題と未来への展望

○宮部 貴子

京都大学

LAS1-4 深層学習による定量的な体外受精胚評価手法の開発

○舟橋 啓

慶應義塾大学

LAS セミナー 2

5月22日(木)

9:15-11:15

第3会場(交流センター 3F 第3会議室)

動物実験がなくなる？代替法の可能性と限界を知る

座長：三浦 竜一(東京大学)

成瀬 知恵(京都大学)

佐々木 えりか(公益財団法人実中研)

2025年、動物の愛護及び管理に関する法律(動愛法)の改正の準備が進められている。改正される動愛法には、動物実験代替法の利用の義務化が追加されることになりそうだ。そもそも動物実験代替法とは？どのようなガイドラインがあるのか？どのような方法があるのか？どの位、精度が高いのか、など動物実験代替法に対する学会会員の皆様の疑問・質問を講師の先生方にお答えいただきます。

LAS2-1 動物試験代替法利活用の現状と展望

○平林 容子

国立医薬品食品衛生研究所

LAS2-2 生体模倣システムが拓く動物実験代替法の未来

○奈良岡 準

アステラス製薬株式会社

LAS2-3 多能性幹細胞を用いた胚モデルの構築

○高島 康弘

京都大学 CiRA

LAS2-4 クラスIV治療機器の評価を変革するヒト病態を模した実験系・評価系の開発

○岩崎 清隆

早稲田大学

知りたい！実験動物 Part4

座長：清成 寛(理化学研究所 生命機能科学研究センター 生体モデル開発チーム)
井上 貴史(岡山理科大学 獣医学部 獣医学科)

動物実験において、適切な動物種を選択し、適切な環境下で飼育し、適切な取り扱いをすることは、極めて重要なことである。そこで、新たな実験動物種の使用を検討するにあたって、その特性を理解し、動物の入手先、飼育管理方法、ハンドリングなど、取り扱いの基本(下記事項)を学ぶ機会を本セミナーで提供する。既に対象の実験動物種を使用している人にも本セミナーを機に改めて飼育や取り扱い方法の確認をしていたきたい。今年はシリーズ第4段として、「コリドラス」、「シマヘビ」、「デグー」、「ウサギ」をとりあげる。

各種実験動物に関する基本事項

- ①基本情報(分類、生理・生態、実験動物としての特性、研究利用の状況など)
- ②入手方法(入手元、入手の際の注意点、関連法令など)
- ③飼育管理方法(環境条件、ケージ、給餌、環境エンリッチメントなど)
- ④ハンドリング方法(捕獲、保定、投与など)

LAS3-1 精子を飲んで繁殖するナマズ「コリドラス」

○河野 菜摘子

明治大学

LAS3-2 思った以上に発生の研究ができそう！「シマヘビ」

○鈴木 孝幸

大阪公立大学

LAS3-3 歌を奏でるかしこいネズミ「デグー」

○篠原 明男、名倉 悟郎、越本 知大

宮崎大学

LAS3-4 扱いやすいだけではない！欠くことの出来ない実験動物「ウサギ」

○西島 和俊

生理学研究所

口頭発表(優秀発表賞)

口頭： 5月21日(水) 9:00-11:50 第1会場:コンベンションホール(コンベンションセンター3F ホールA1-A3)
示説・討論 5月22日(木) 17:00-18:00 ポスター・展示会場(第3展示館)

座長：佐加良 英治(兵庫医科大学)
新美 君枝(理研CBS)

BP-01 エンリッチ環境飼育は慢性ストレスにより誘発されるミクログリア表現型を変化させ、うつ様行動を緩解する

○長谷川 真也¹⁾、毛利 彰宏^{1,4)}、國澤 和生¹⁾、坂田 昂駿¹⁾、倉橋 仁美¹⁾、齋藤 邦明^{2,3,4)}、鍋島 俊隆^{3,4)}

¹⁾ 藤田医科大学・大学院保健学研究科・レギュラトリーサイエンス分野、

²⁾ 藤田医科大学・大学院保健学研究科・先進診断システム開発分野、

³⁾ 藤田医科大学・大学院保健学研究科・健康医科学創造共同研究部門、

⁴⁾ NPO法人医薬品適正使用推進機構

BP-02 2段階ES細胞ゲノム編集による遺伝子全長ヒト化マウス作製法の開発

○田口 純平¹⁾、伊川 正人^{1,2)}、小沢 学¹⁾

¹⁾東京大学医科学研究所、²⁾大阪大学微生物病研究所

BP-03 体細胞核移植胚における *Alyref* と *Gabpb1* の不完全な活性化は着床前発生の停止を引き起こす

○井橋 俊哉^{1,7)}、森 龍之介¹⁾、西崎 俊太郎^{1,8)}、井上 貴美子^{2,3)}、的場 章悟^{2,4)}、越後貫 成美²⁾、鷹巢 篤志¹⁾、松本 和也¹⁾、安齋 政幸⁵⁾、小倉 淳郎^{2,3)}、伊川 正人⁶⁾、宮本 圭^{1,8)}

¹⁾近畿大学生物理工学部分子発生工学研究室、²⁾理研BRC遺伝工学基盤技術室、

³⁾筑波大学理工情報生命学術院生命地球科学研究群生命農学学位プログラム、

⁴⁾東京農工大学共同獣医学専攻、⁵⁾近畿大学先端技術総合研究所、⁶⁾大阪大学微生物病研究所、

⁷⁾京都大学大学院医学研究科附属動物実験施設、

⁸⁾九州大学大学院農学研究科資源生物科学部門動物・海洋生物資源学講座動物繁殖生理学分野

BP-04 経胎盤移植法と *Runx1* 欠損を用いた放射線照射不要の完全異種造血系を持つマウスの開発

○廖 晉緯^{1,2)}、全 孝静³⁾、脇本 新⁴⁾、Zeynab Shahri^{1,2)}、Natalia Gogoleva^{1,2)}、濱田 理人¹⁾、高橋 智¹⁾

¹⁾筑波大学解剖学発生学研究室、²⁾筑波大学人間総合科学ヒューマンバイオロジー学位プログラム、

³⁾東京大学医科学研究所細胞制御研究分野、⁴⁾ワシントン大学

BP-05 健康長寿モデル動物ハダカデバネズミにおける人工授精法の確立と出産率の向上

○奥村 果林、鈴木 悠介、岡 香織、河村 佳見、三浦 恭子

熊本大学生命科学研究部老化・健康長寿学講座

BP-06 異種移植用ドナー臓器「ヒト→ブタハイブリッド腎臓」を実現するノックインブタの作出

○野口 光央¹⁾、谷原 史倫¹⁾、向田 風沙²⁾、山中 修一郎²⁾、稲毛 由佳²⁾、原 弘真¹⁾、井上 誠^{1,3)}、花園 豊¹⁾、横尾 隆²⁾、本多 新¹⁾

¹⁾自治医科大学、²⁾東京慈恵会医科大学、³⁾住友ファーマ株式会社

BP-07 心臓を標的とした迅速cKO法によるRNA結合タンパク質群の機能解析

○三上 夏輝¹⁾、小山 隼²⁾、村田 知弥³⁾、杉山 文博⁴⁾、水野 聖哉⁴⁾

¹⁾筑波大学人間総合科学研究群ヒューマンバイオロジー学位プログラム、

²⁾筑波大学人間総合科学研究群フロンティア医科学学位プログラム、³⁾岐阜大学高等研究院COMIT、

⁴⁾筑波大学医学医療系生命科学動物資源センター

BP-08 肥満糖尿病モデルZFDマウスにおける糖尿病感受性遺伝子座の網羅的探索

○高木 美智¹⁾、浦川 隆矢¹⁾、足立 直紀¹⁾、廣小路 知貴¹⁾、中田 千陽¹⁾、星野 貴一²⁾、横井 伯英¹⁾

¹⁾京都大学大学院農学研究科動物遺伝育種学分野、²⁾(株)星野試験動物飼育所

BP-09 胎生期バルプロ酸曝露マウスの自閉スペクトラム症様行動に対する5-HT1A受容体を介した薬理学的作用

○倉橋 仁美¹⁾、國澤 和生^{1,2)}、田中 謙二³⁾、窪田 悠力^{1,2)}、長谷川 真也¹⁾、宮地 麻衣⁴⁾、守屋 友加⁴⁾、長谷川 洋一⁴⁾、永井 拓²⁾、齋藤 邦明^{5,6,7)}、鍋島 俊隆^{2,6,7)}、毛利 彰宏^{1,2,7)}

¹⁾藤田医科大学医療科学部レギュラトリーサイエンス分野、

²⁾藤田医科大学精神・神経病態解明センター、³⁾慶應義塾大学医学部先端医科学研究所、

⁴⁾名城大学薬学部薬学科、⁵⁾藤田医科大学医療科学部先進診断システム開発分野、

⁶⁾藤田医科大学医療科学部健康医学創造共同研究部門、⁷⁾NPO医薬品適正使用推進機構

BP-10 内視鏡技術を用いた左葉選択的な肺がん同所性移植モデルにおける薬効評価及び微小環境解析

○西中 栄子、西銘 千代子、小松 将之、佐藤 人美、望月 美沙、川井 健司、山本 大地、鈴木 雅実

公益財団法人実中研

BP-11 テストステロンの経皮投与はKFRS4ラットの皮膚炎を抑制する

○林 健太¹⁾、長坂 夏奈¹⁾、北爪 知希¹⁾、下笠 瞭太¹⁾、ホアン ヒエウ¹⁾、中村 紳一郎²⁾、庫本 高志¹⁾

¹⁾東京農業大学動物科学動物栄養学研究室、²⁾麻布大学獣医学部実験動物学研究室

BP-12 ベンジルアミン系化合物DDI-4を用いた温度感受性男性不妊症の線虫モデルの研究

○島田 幸祐¹⁾、金 俊達²⁾、軽尾 友紀子³⁾、河合 健太郎³⁾、本多 新⁴⁾、深水 昭吉⁵⁾、表 雅章³⁾、西村 仁¹⁾

¹⁾摂南大学理工学部生命科学科、²⁾富山大学和漢医薬学総合研究所、³⁾摂南大学薬学部薬学科、

⁴⁾自治医科大学医学部先端医療技術開発センター、⁵⁾筑波大学生存ダイナミクス研究センター

口頭発表(一般)

口頭発表 I

5月21日(水)

9:15-11:45

第4会場(交流センター 3F 第4会議室)

「疾患モデル 1」

座長：吉崎 嘉一(山梨大学)

O-01 Desbuquois骨異形成症モデルマウスを用いたCANT1の腱組織における機能解明

○山下 莉奈¹⁾、水本 秀二²⁾、中野 堅太³⁾、山田 修平²⁾、岡村 匡史³⁾、古市 達哉¹⁾

¹⁾岩手大学大学院獣医学部実験動物学研究室、²⁾名城大学薬学部、³⁾国立国際医療研究センター研究所

O-02 転写因子MafA点変異マウスによる腎細胞癌発症モデルの可能性

○藤野 三法¹⁾、神鳥 周也²⁾、高橋 智¹⁾

¹⁾筑波大学医学医療系解剖学発生学研究室、²⁾筑波大学医学医療系泌尿器科

O-03 ヒト化好酸球性喘息モデルマウスの開発と薬効評価系への応用

○伊藤 亮治¹⁾、大野 裕介¹⁾、丸岡 秀一郎²⁾、布村 聡³⁾

¹⁾公益財団法人実中研、²⁾日本大学医学部呼吸器内科、

³⁾佐賀大学医学部分子生命科学講座分子医化学分野

O-04 イヌ筋ジストロフィーモデルにおける起き直り運動を対象とした加速度・角速度アウトカムの評価

○倉岡 陸季^{1,2)}、井上 琴望^{1,2)}、渡部 果林^{2,3)}、立森 久照⁴⁾、笠原 優子⁵⁾、竹内 絵理²⁾、今村 道博²⁾、太田 能之³⁾、武田 伸一⁶⁾、峰岸 かつら²⁾、青木 吉嗣²⁾

¹⁾日獣大・動物科・実験動物学、²⁾国立精神・神経医療研究センター・神経研・遺伝子疾患治療研究部、

³⁾日獣大・動物科・生産化学、⁴⁾慶應・医・医療政策・管理学、

⁵⁾東大医科研・遺伝子・細胞治療センター・分子遺伝医学、⁶⁾国立精神・神経医療研究センター・神経研

「疾患モデル 2」

座長：吉沢 隆浩(信州大学)

O-05 Target-AIDを用いた肝臓特異的マルチノックアウトマウス作製

○青木 円果¹⁾、康 宇鎮²⁾、滝 大斗¹⁾、水野 聖哉²⁾、高橋 智²⁾

¹⁾筑波大学人間総合科学研究群ヒューマンバイオロジー学位プログラム、

²⁾筑波大学医学医療系トランスボーダー医学研究センター生命科学動物資源センター

O-06 *HoxD* 遺伝子座を含む染色体逆位マウスは雌性不妊を呈する

○平野 克樹¹⁾、岩田 悟^{2,3,4,5)}、昌子 浩孝⁶⁾、高松 学⁷⁾、長原 美樹³⁾、宮川 剛⁶⁾、岩本 隆司^{1,2,3)}

¹⁾中部大・院生命健康科学研究科、²⁾中部大・生命健康・生命医科、³⁾中部大・実験動物教育研究センター、

⁴⁾中部大・応用生物、⁵⁾中部大・AI数理データサイエンスセンター、

⁶⁾藤田医科大学・医科学研究センター・システム医科学研究部門、

⁷⁾公益財団法人がん研究会がん研究所・病理部

O-07 *Mocos* 遺伝子欠損ラットの病態解析

○浦崎 真央¹⁾、林 健太¹⁾、長坂 夏奈¹⁾、城戸 美紀¹⁾、上川 愛悟¹⁾、村田 幸哉¹⁾、服部 晃佑²⁾、
真下 知二²⁾、庫本 高志¹⁾

¹⁾東京農業大学農学部動物栄養学研究室、²⁾東京大学医科学研究所先進動物ゲノムセンター

「脳・神経・行動 1」

座長：徳永 暁憲（福井大学）

O-08 病因妥当性の高い統合失調症モデルマウスを用いた病態解明研究

○川崎 歩^{1,2,3)}、中村 匠¹⁾、昌子 浩孝³⁾、山本 明那¹⁾、本田 久楽々¹⁾、宮川 剛³⁾、佐々木 宣哉²⁾、
高田 篤¹⁾

¹⁾理化学研究所脳神経科学研究センター分子精神病理研究チーム、

²⁾北里大学獣医学系研究科実験動物学研究室、

³⁾藤田医科大学医科学研究センターシステム医科学研究部門

O-09 新規周産期うつ病モデルマウス作製法の開発

○伊藤 日加瑠^{1,2)}、伊藤 益美^{1,2)}、三好 香央梨³⁾、金井 正美³⁾

¹⁾香川大学医学部総合生命科学、²⁾香川大学研究基盤センター動物実験施設、

³⁾東京科学大学動物実験施設

O-10 Anti-inflammatory effects of CBD-loaded lipid nanoparticles on anxiety and barrier integrity

○Sarawut Lapmanee¹⁾, Siriwan Sriwong²⁾, Mattaka Khongkow³⁾, Katawut Namdee³⁾

¹⁾Chulabhorn International College of Medicine, Thammasat University,

²⁾Laboratory Animal Center, Thammasat University,

³⁾National Nanotechnology Centre, National Science and Technology Development Agency, Thailand

O-11 NPY の中枢投与は、高温暴露後のニワトリヒナの視床下部および脾臓のカテコールアミン代謝を制御する

○西村 悠¹⁾、エルホセニ Z. モハメド^{2,3)}、スルチョードリ ビシュワジット^{2,4)}、高橋 英機¹⁾

¹⁾九州大学大学院医学研究院基礎医学部門実験動物学研究室、²⁾九州大学基幹教育院、

³⁾アスワン大学動物家禽行動管理学科、⁴⁾九州大学大学院生物資源環境科学府

「脳・神経・行動 2」

座長：天野 孝紀（理化学研究所）

O-12 炎症性腸疾患に併発する精神症状における腸内細菌叢の関与

○國澤 和生^{1,3,4)}、齋藤 いまり¹⁾、田辺 萌夏²⁾、小菅 愛加¹⁾、河合 智貴¹⁾、鍋島 俊隆^{2,3,4)}、
毛利 彰宏^{1,3,4)}

¹⁾藤田医科大学大学院医療科学研究科レギュラトリーサイエンス分野、

²⁾藤田医科大学大学院医療科学研究科健康医学創造共同研究部門、

³⁾藤田医科大学精神神経病態解明センター (ICBS)、⁴⁾NPO 法人医薬品適正使用推進機構

O-13 ラット関節症で見られる歩行異常の機械学習による定量的な解析方法に関する検討

○竹ノ内 晋也¹⁾、港 高志¹⁾、福田 将大¹⁾、小林 幸司²⁾、永田 奈々恵¹⁾、村田 幸久^{1,2,3)}

¹⁾ 東京大学大学院農学生命科学研究科放射線動物科学研究室、

²⁾ 東京大学大学院農学生命科学研究科食と動物のシステム科学研究室、

³⁾ 東京大学大学院農学生命科学研究科獣医薬理学研究室

O-14 機械学習を用いたC57BL/6マウスのひっかき行動解析法の確立

○宮崎 優介¹⁾、小林 幸司²⁾、村田 幸久^{1,2,3)}

¹⁾ 東京大学大学院農学生命科学研究科放射線動物科学研究室、

²⁾ 東京大学大学院農学生命科学研究科食と動物のシステム科学研究室、

³⁾ 東京大学大学院農学生命科学研究科獣医薬理学研究室

口頭発表 II

5月22日(木)

9:15-11:45

第4会場(交流センター 3F 第4会議室)

「発生工学(再生医療も含む) 1」

座長：松下 夏樹(愛知医科大学)

O-15 「一般社団法人 動物生殖工学研究所」の設立

○中潟 直己

熊本大学生命資源研究・支援センター生殖工学共同研究分野

O-16 低分子化合物によるAAVベクターを用いたブタ受精卵ノックイン効率の改善

○原 弘真^{1,2)}、野口 光央¹⁾、谷原 史倫^{1,2)}、井上 誠^{2,3)}、花園 豊^{1,2)}、本多 新^{1,2)}

¹⁾ 自治医科大学先端医療技術開発センター、²⁾ 自治医科大学再生医学研究部、³⁾ 住友ファーマ株式会社

O-17 マウス→ラット異種間キメラにおけるラット肺上皮細胞はラットの発生時間を刻む

○村田 大和¹⁾、由利 俊祐²⁾、伊川 正人³⁾、磯谷 綾子¹⁾

¹⁾ 奈良先端科学技術大学院大学器官発生工学研究室、²⁾ 国立長寿医療研究センター、

³⁾ 大阪大学微生物病研究所

O-18 大阪大学・微生物病研究所／免疫学フロンティア研究センター附属感染動物実験施設における発生工学支援成績

○山本 魁音¹⁾、江森 千紘^{1,2)}、鴨下 真紀^{1,2)}、増子 大輔^{1,2)}、畑中 勇輝^{1,2)}、古田 なつき^{1,2)}、
笹岡 佳夫²⁾、西岡 佐紀²⁾、森 光子²⁾、中川 達哉^{2,3)}、伊川 正人^{1,2,3)}

¹⁾ 大阪大学免疫学フロンティア研究センター、²⁾ 大阪大学微生物病研究所、³⁾ NPO 法人発生工学研究会

「発生工学(再生医療も含む) 2」

座長：金子 武人(大阪公立大学)

O-19 マウス胚発生におけるガラクトース糖鎖の役割

○李 双¹⁾、成瀬 智恵¹⁾、魏 恒¹⁾、杉原 一司¹⁾、磯谷 綾子²⁾、浅野 雅秀¹⁾

¹⁾ 京都大学、²⁾ 奈良先端科学技術大学院大学

O-20 胎仔生殖腺再構築による雄ラット ES 細胞由来PGC様細胞の成熟化

○児嶋 洗貴^{1,2)}、及川 真実¹⁾、山口 智之¹⁾、小林 俊寛^{2,3)}

¹⁾ 東京薬科大学生命科学部・再生医科学研究室、²⁾ 東京大学医科学研究所・再生発生学分野、

³⁾ 自然科学研究機構・生理学研究部・個体創生研究部門

O-21 ディプロテン期精母細胞発生停止マウスは顕微授精により産仔作出が可能である

○越後貫 成美¹⁾、日野 敏昭²⁾、大澤 優生³⁾、藤原 靖裕⁴⁾、井上 貴美子^{1,3)}、国枝 哲夫⁵⁾、水野 聖哉³⁾、杉山 文博³⁾、大月 純子⁶⁾、大浦 聖矢⁷⁾、Elena de la Casa-Esperón⁸⁾、古瀬 民生¹⁾、岡田 由紀⁴⁾、田村 勝¹⁾、伊川 正人⁷⁾、小倉 淳郎^{1,3,9)}

¹⁾理化学研究所BRC、²⁾旭川医科大学、³⁾筑波大学、⁴⁾東大定量研、⁵⁾岡山大学、
⁶⁾英ウィメンズクリニック、⁷⁾大阪大学微生物病研究所、⁸⁾University of Castilla-La Mancha、
⁹⁾理化学研究所CPR

「バイオリソース」

座長：阿部 学(新潟大学)

O-22 疾患関連遺伝子および表現型情報を用いた新規疾患モデル動物推定の新しいアプローチ

○櫛田 達矢、白田 大輝、高田 豊行、榎屋 啓志

国立研究開発法人理化学研究所

O-23 多種動物のノックアウト変異体作製におけるCRISPRデザインを自動化するツールKOzooの開発

○滝 大斗¹⁾、久野 朗広²⁾、鈴木 颯²⁾、水野 聖哉²⁾

¹⁾筑波大学人間総合科学研究群ヒューマンバイオロジー学位プログラム、
²⁾筑波大学医学医療系生命科学動物資源センター

O-24 受精卵ゲノム編集を用いたノックインマウス作製における遺伝品質管理

○綾部 信哉¹⁾、中島 謙一²⁾、岩間 瑞穂¹⁾、三輪 佳宏²⁾、吉木 淳¹⁾

¹⁾理化学研究所バイオリソース研究センター実験動物開発室、
²⁾理化学研究所バイオリソース研究センター遺伝子材料開発室

「微生物・感染・免疫」

座長：佐々木 崇(札幌医科大学)

O-25 マウスの *Staphylococcus aureus* 感染による口周囲・胸腔内膿瘍の病理学的解析

○保田 昌彦¹⁾、田中 舞²⁾、鎌井 陽子¹⁾、森田 華子²⁾、望月 美沙¹⁾、林元 展人²⁾、川井 健司¹⁾

¹⁾公益財団法人実中研病理解析センター、²⁾公益財団法人実中研ICLASモニタリングセンター

O-26 SPF ゴールデンハムスターの糞便細菌叢

○池 郁生、廣瀬 美智子、富島 俊子、小倉 淳郎

理研BRC遺伝工学

O-27 詳細時系列解析を用いた疾患発症に応答する腸内細菌叢変動パターンの検出

○増岡 弘晃¹⁾、黒川 李奈¹⁾、Ben JE Raveney^{1,2)}、竹脇 大貴^{1,2)}、高安 伶奈¹⁾、増川 理恵^{1,3)}、吉川 優³⁾、Tanzila Islam³⁾、高安 秀樹^{1,3)}、高安 美佐子³⁾、須田 互¹⁾

¹⁾理化学研究所生命医科学研究センター、²⁾国立精神・神経医療研究センター、
³⁾東京科学大学情報理工学院

O-28 マウス糞便自動採取装置開発による腸内微生物叢の時系列動態解明の試み

○黒川 李奈¹⁾、増岡 弘晃¹⁾、高安 伶奈^{1,2)}、増川 理恵³⁾、吉川 優³⁾、高安 秀樹^{1,3)}、Tanzila Islam³⁾、高安 美佐子³⁾、須田 互¹⁾

¹⁾理化学研究所生命医科学研究センター共生微生物叢研究チーム、
²⁾Meinig School of Biomedical Engineering, Cornell University、³⁾東京科学大学情報理工学院

「遺伝・育種・遺伝子機能 1」

座長：水野 直彬(東京科学大学)

O-29 NOD/Shi マウスの難聴は複数のリスクアレルの相加的効果によって発症する

○吉川 欣亮¹⁾、侯 雪含¹⁾、Ornjira Prakhongcheep¹⁾、安田 俊平¹⁾、三浦 郁生²⁾、田村 勝²⁾、
設楽 浩志³⁾

¹⁾(公財) 東京都医学総合研究所基礎医科学研究分野、

²⁾理化学研究所バイオリソース研究センターマウス表現型解析技術室、

³⁾(公財) 東京都医学総合研究所基盤技術支援センター

O-30 生理的温度変化に依存するマウス初期胚のクロマチン構造と発現遺伝子の探索

○吉村 祐貴¹⁾、中村 和臣²⁾、近藤 邦生¹⁾、檜山 武史^{1,3)}

¹⁾鳥取大学医学部生理学講座統合生理学、²⁾鳥取大学医学部附属病院新規医療研究推進センター、

³⁾鳥取大学国際乾燥地研究教育機構

O-31 Pak1欠損による発がん抑制を修飾する因子の探索

○奥村 和弘¹⁾、齋藤 慈¹⁾、田中 晴空¹⁾、荒木 喜美²⁾、若林 雄一¹⁾

¹⁾千葉県がんセンター研究所・がんゲノムセンター・実験動物研究部、

²⁾熊本大学生命資源研究・支援センター疾患モデル分野

O-32 膵島形態の異なる動物モデル間の比較による肥満糖尿病における膵島破壊機構の解明

○横井 伯英¹⁾、水野 智花¹⁾、伊藤 佑奈¹⁾、宇野 絹子²⁾、太田 毅²⁾、星野 貴一³⁾、宮坂 勇輝⁴⁾、
大野 民生⁴⁾

¹⁾京都大学大学院農学研究科動物遺伝育種学分野、²⁾京都大学大学院農学研究科生体機構学分野、

³⁾(株) 星野試験動物飼育所、⁴⁾名古屋大学大学院医学系研究科実験動物部門

「遺伝・育種・遺伝子機能 2」

座長：庫本 高志(東京農業大学)

O-33 大腸癌の発生・増殖におけるMISP/OIP5複合体の役割

○日裏 剛基^{1,2)}、渡邊 正輝²⁾、廣瀬 直毅³⁾、中野 堅太⁴⁾、岡村 匡史⁴⁾、佐々木 隼人²⁾、佐々木 宣哉²⁾

¹⁾量子科学技術研究開発機構、²⁾北里大学獣医学部実験動物学研究室、

³⁾大阪大学医学部附属動物実験施設、⁴⁾国立国際医療研究センター研究所

O-34 マウス初期胚におけるスプライシング関連遺伝子の機能解析

○鈴木 颯¹⁾、Ho Tam Nguyen²⁾、水野 聖哉¹⁾

¹⁾筑波大学医学医療系生命科学動物資源センター、

²⁾筑波大学・院人間総合科学学術院フロンティア医科学学位プログラム

O-35 マウス Sox17 遺伝子上流配列の機能解析

○曾 詩涵^{1,2)}、柳田 絢加¹⁾、太田 考陽¹⁾、上村 麻実^{1,3)}、平手 良和²⁾、早川 佳那²⁾、平松 竜司¹⁾、
水野 直彬²⁾、金井 克晃¹⁾、金井 正美²⁾

¹⁾東京大学獣医解剖学研究室、²⁾東京科学大学動物実験施設、

³⁾国立感染症研究所次世代生物学的製剤研究センター

「実験手技・代替・麻酔・鎮痛 1」

座長：宮部 貴子（京都大学）

O-36 高度安全実験施設の運用に向けたカニクイザル頭蓋骨の代替3Dモデルの開発

○藤井 祐至¹⁾、森 崇^{2,3)}、野末 祐大³⁾、小山 久美子¹⁾、松崎 綾乃¹⁾、林田 佳奈美¹⁾、古山 若呼¹⁾、木下 貴明¹⁾、津田 祥美¹⁾、好井 健太朗¹⁾、小林 純子¹⁾

¹⁾長崎大学高度感染症研究センター動物実験管理室、²⁾岐阜大学応用生物科学部共同獣医学科、³⁾岐阜大学動物病院

O-37 マウスのMMB麻酔下における外科的侵襲に対する疼痛反応

○伊藤 拓哉¹⁾、佐々木 一益²⁾

¹⁾旭川医科大学、²⁾秋田県立循環器・脳脊髄センター

「実験手技・代替・麻酔・鎮痛 2」

座長：石橋 英俊（東京医科大学）

O-38 非接触式によるマウス呼吸数および心拍数の測定

○川辺 敏晃¹⁾、瀬崎 華芳¹⁾、大村 功¹⁾、道野 隆二²⁾、渡辺 秀典²⁾、黒田 修平²⁾、山内 寿十¹⁾、井上 聖也¹⁾

¹⁾アーク・リソース株式会社、²⁾熊本県産業技術センター

O-39 台湾国立実験動物センターにおける国際マウス・ラット生殖工学研修会

○弟子丸 優果^{1,2)}、中村 智^{1,2)}、山下 紀代子^{1,2)}、坂口 摩姫^{1,2)}、打越 喜春^{1,2)}、古上 圭輔^{1,2)}、大関 舞香^{1,2)}、安田 智穂^{1,2)}、三小田 伸之^{2,3)}、高橋 郁¹⁾、坂口 香織¹⁾、坂本 亘¹⁾、土山 修治¹⁾、中川 佳子¹⁾、Catherine Liao⁴⁾、Genie Chin⁴⁾、Jorge Sztain¹⁾、中尾 聡宏¹⁾、中潟 直己³⁾、竹尾 透¹⁾

¹⁾熊本大学生命資源研究・支援センター（CARD）資源開発分野、²⁾九動株式会社、

³⁾熊本大学生命資源研究・支援センター（CARD）生殖工学共同研究分野、

⁴⁾National Applied Research Laboratories, National Laboratory Animal Center (NLAC)

O-40 マカクの混合麻酔におけるメドミジン代替薬ゼナルファの循環動態への影響

○宮部 貴子¹⁾、兼子 明久¹⁾、宮嶋 友子¹⁾、山中 淳史¹⁾、植木 萌葉¹⁾、澤田 悠斗²⁾、中山 駿矢³⁾、揚山 直英⁴⁾

¹⁾京都大学ヒト行動進化研究センター、²⁾麻布大学実験動物学教室、³⁾日本大学獣医生理学教室、

⁴⁾医薬基盤・健康・栄養研究所霊長類医科学研究センター

「薬理・安全性」

座長：吉村 文（藤田医科大学）

O-41 機械学習を応用したマウスのエソグラム自動作成システムの構築

小林 唯¹⁾、福田 将大¹⁾、木田 美聖¹⁾、大崎 真里亜¹⁾、岸 拓也¹⁾、大森 啓介¹⁾、小林 幸司¹⁾、

○村田 幸久^{1,2,3)}

¹⁾東京大学大学院農学生命科学研究科食と動物のシステム科学研究室、

²⁾東京大学大学院農学生命科学研究科放射線動物科学研究室、

³⁾東京大学大学院農学生命科学研究科獣医薬理学研究室

O-42 Andrographolide-encapsulated lipid nanoparticle in PVA/SA hydrogel microsphere enhances wound healing in rats

○Pichaya Supawatin¹⁾, Pornmongkol Rattanasarun¹⁾, Kamonthip Trisukhon¹⁾, Katawut Namdee²⁾, Sarawut Lapmanee³⁾

¹⁾Faculty of Medicine, Siam University,

²⁾National Nanotechnology Centre, National Science and Technology Development Agency, Thailand,

³⁾Chulabhorn International College of Medicine, Thammasat University

口頭発表Ⅳ

5月23日(金)

13:30-16:00

第4会場(交流センター 3F 第4会議室)

「疾患モデル 3」

座長：伊藤 日加留(香川大学)

O-43 CRISPR/Cas3によるトランスサイレチン型心アミロイドーシスの *in vivo* 遺伝子治療法の開発

○石田 紗恵子¹⁾、佐藤 悠介²⁾、帖佐 圭佑³⁾、尾山 大明⁴⁾、真栄城 正寿⁵⁾、石川 智夫⁶⁾、山村 研一⁷⁾、吉見 一人¹⁾、真下 知士¹⁾

¹⁾東京大学医科学研究所先進動物ゲノム研究分野、²⁾北海道大学大学院薬学研究院薬剤分子設計学教室、

³⁾株式会社C4U、⁴⁾東京大学医科学研究所疾患プロテオミクスラボラトリー、

⁵⁾北海道大学大学院工学研究院応用化学部門、⁶⁾株式会社トランスジェニック、

⁷⁾株式会社トランスジェニックグループ

O-44 アラビアトゲマウスを用いた卵巣子宮内膜症モデルの作製と病理学的所見

○森竹 美紗樹¹⁾、小川 遥菜¹⁾、名倉 悟郎¹⁾、久保田 壽樹²⁾、中家 雅隆³⁾、篠原 明男¹⁾、菱川 善隆²⁾、浅田 祐士郎⁴⁾、越本 知大¹⁾

¹⁾宮崎大学フロンティア科学総合研究センター、²⁾宮崎大学医学部組織細胞化学分野、³⁾滋賀医科大学、

⁴⁾宮崎市郡医師会病院

O-45 HSC70 シャペロンの機能異常はラットにおいて溶血性貧血を引き起こす

○長坂 夏奈¹⁾、小池 紗永¹⁾、長塚 蘭奈¹⁾、鳥居 恭司¹⁾、清水 律子²⁾、山本 雅之²⁾、小田 康雅³⁾、田中 美有⁴⁾、桑村 充⁴⁾、松本 清司⁵⁾、庫本 高志¹⁾

¹⁾東京農業大学農学部動物科学科、²⁾東北大学・東北メディカル・メガバンク、³⁾シスメックス株式会社、

⁴⁾大阪公立大学獣医学部獣医病理学教室、⁵⁾元信州大学

「疾患モデル 4」

座長：村田 知弥(岐阜大学)

O-46 GLUT1欠損症モデルマウスにおける糖代謝表現型の解析

○古瀬 民生、篠木 晶子、尾崎 真央、柳沢 僚子、串田 知子、田村 勝

国立研究開発法人理化学研究所バイオリソース研究センターマウス表現型解析技術室

O-47 妊娠期ストレスによる産後うつモデルの作成とトリプトファン代謝物を標的としたバイオマーカー開発

○坂田 昂駿¹⁾、荻谷 佳幸¹⁾、國澤 和生^{1,4)}、長谷川 真也¹⁾、倉橋 仁美¹⁾、齋藤 邦明^{2,3,4)}、鍋島 俊隆^{3,5)}、毛利 彰宏^{1,4,5)}

¹⁾藤田医科大学・大学院医療科学研究科・レギュラトリーサイエンス分野、

²⁾藤田医科大学・大学院医療科学研究科・先進診断システム開発分野、

³⁾藤田医科大学・大学院医療科学研究科・健康医学創造共同研究部門、

⁴⁾藤田医科大学精神・神経病態解明センター神経化学部門、⁵⁾NPO法人医薬品適正使用推進機構

O-48 動的な生殖ライフスパン研究に寄与する自然老化動物の育成

○野田 義博¹⁾、阿部 優子²⁾、大垣 安寿²⁾、井上 貴美子³⁾、金井 正美⁴⁾

¹⁾東京科学大学リサーチインフラマネジメント機構バイオサイエンスセンター動物実験施設、

²⁾三協ラボサービス株式会社、³⁾理化学研究所バイオリソース研究センター遺伝工学基盤技術室、

⁴⁾東京科学大学大学院医歯学総合研究科疾患モデル動物解析学分野

O-49 後肢リンパ浮腫モデルマウスの作出

○市瀬 広武、市瀬 多恵子

琉球大学医学部附属動物実験施設

「管理・施設・倫理・福祉 1」

座長：小泉 誠（東京慈恵医科大学）

O-50 Rehoming用紹介資料の満足度調査とその改善

○安倍 宏明、石川 玄

マーシャル・バイオリソース・ジャパン株式会社

O-51 動物実験委員会の業務自動化・効率化とセキュリティ向上—東京医科大学2025

○石橋 英俊

東京医科大学

O-52 A new device and method for simultaneously collecting 12-lead electrocardiograms in mice

○Liantao Nie, Shifeng Li, Fangfang Zhang, Zhongjian Li

The Second Affiliated Hospital of Zhengzhou University

「管理・施設・倫理・福祉 2」

座長：丸山 基世（日本医科大学）

O-53 スペインにおける動物実験の現状

○三浦 詩織^{1,2)}、末吉 邦¹⁾

¹⁾新潟大学研究統括機構研究倫理・リスク管理部門、²⁾新潟大学脳研究所動物資源開発研究分野

O-54 Measurement of QT/QTc intervals in mouse hearts based on synchronous 12-lead ECG

○Shifeng Li, Sumeng Wang, Kexin Luo, Wanxia Li, Jiahui Yang, Zhongjian Li

The Second Affiliated Hospital of Zhengzhou University

「解剖・組織・病理・病態」

座長：兼平 雅彦（山梨大学）

O-55 精神的ストレスによるマウス血小板機能変化

○松久 葉一、河端 万葉、北嶋 修司

佐賀大学総合分析実験センター

O-56 多包条虫感染初期の肝組織応答におけるコトンラットと実験用マウスの種差

○中村 鉄平¹⁾、真鍋 真瑠¹⁾、佐藤 佳祐¹⁾、林 直樹²⁾、孝口 裕一³⁾、中尾 亮²⁾、日高 正人³⁾、
松山 紘之³⁾、野中 成晃²⁾、森松 正美¹⁾

¹⁾北海道大学大学院獣医学研究院実験動物学教室、²⁾北海道大学大学院獣医学研究院寄生虫学教室、

³⁾北海道立衛生研究所感染症部

「管理・施設・倫理・福祉」

P-001 燻蒸消毒後に排気口に設置した養生シートを安全に遠隔除去する方法

○加藤 千晶、石黒 智己、浅井 真人

愛知県医療療育総合センター発達障害研究所

P-002 動物実験のための国際的な要求事項に対する実験動物獣医師団体 IACLAM の活動

○花井 幸次¹⁾、内橋 真悠²⁾、宮田 桂司³⁾、山田 梓⁴⁾、浅野 淳⁵⁾

¹⁾島根大学、²⁾日本メドトロニック、³⁾獣医学教育支援機構、⁴⁾ラビックス、⁵⁾鹿児島大学

P-003 マウスの繁殖成績に対する飼育室およびケージ内照度の影響

○坂本 亘¹⁾、中尾 聡宏²⁾、竹尾 透²⁾

¹⁾熊本大学技術部、²⁾熊本大学生命資源研究・支援センター(CARD)資源開発分野

P-004 新潟大学動物実験施設における地震等へのリスク対応

○作間 昶法、平澤 克哉、足立 周子、佐々木 綾音、桑原 沙耶香、中村 古都、小田 佳奈子、
福田 七穂、笹岡 俊邦

新潟大学脳研究所動物資源開発研究分野

「実験手技・代替・麻酔・鎮痛」

P-005 XN-Vシリーズ(血球分析装置用動物対応ソフトウェア)におけるトリ血液の解析について

○小田 康雅

シスメックス株式会社R&I営業推進部

P-006 実中研・動物実験技術VRの実技実習への試験的実装とその効果

○橋本 晴夫、高倉 彰

公益財団法人実中研

P-007 ニホンザルにおける体組成計を用いた新規評価法の樹立

○内田 慎介¹⁾、鯉江 洋¹⁾、中山 駿矢^{1,2)}、米田 伊吹¹⁾、伊藤-藤城 康世¹⁾、澤田 悠斗³⁾、兼子 明久⁴⁾、
宮部 貴子⁴⁾、揚山 直英²⁾

¹⁾日本大学、²⁾医薬基盤・健康・栄養研究所霊長類医科学研究センター、³⁾麻布大学、

⁴⁾京都大学ヒト行動進化研究センター

P-008 2種類の急性疼痛試験を用いたブプレノルフィンの鎮痛効果の比較

○田中 美生子、加藤 綾乃、今田 玲菜、藤平 篤志

日本獣医生命科学大学・実験動物学教室

P-009 若齢のニホンザルにおける心胸郭比の評価

○澤田 悠斗¹⁾、塚本 篤士¹⁾、兼子 明久²⁾、揚山 直英³⁾、中村 紳一郎¹⁾、宮部 貴子²⁾

¹⁾麻布大学実験動物学研究室、²⁾京都大学ヒト行動進化研究センター、

³⁾医薬基盤・健康・栄養研究所霊長類医科学研究センター

P-010 熊本大学CARDマウス生殖工学研修会における新たな取り組み

○山下 紀代子^{1,2)}、中村 智^{1,2)}、坂口 摩姫^{1,2)}、弟子丸 優果^{1,2)}、打越 喜春^{1,2)}、古上 圭輔^{1,2)}、大関 舞香^{1,2)}、安田 智穂^{1,2)}、三小田 伸之^{2,3)}、高橋 郁¹⁾、坂口 香織¹⁾、坂本 亘¹⁾、土山 修治¹⁾、中尾 聡宏¹⁾、中川 佳子¹⁾、中潟 直己³⁾、竹尾 透¹⁾

¹⁾熊本大学生命資源研究・支援センター (CARD) 資源開発分野、²⁾九動株式会社、

³⁾熊本大学生命資源研究・支援センター (CARD) 生殖工学共同研究分野

P-011 実験動物における新たな安楽死薬の探索Ⅱ—非医薬品ペントバルビタールの有用性について—

○田熊 究一、長町 安希子

公益財団法人神戸医療産業都市推進機構動物実験飼育施設

P-012 レミゾラム・メドミジン・ブトルファノールを用いた混合麻酔の有効性に関する検討

○渡邊 正輝¹⁾、小山 純正²⁾、高橋 和巳³⁾、二階堂 優子¹⁾、佐々木 宣哉¹⁾

¹⁾北里大学獣医学部実験動物学研究室、²⁾福島大学共生システム理工学類、

³⁾福島県立医科大学医学部システム神経科学講座

P-013 デクスメドミジンを含むマウス用三種混合バランス麻酔薬の評価

○中西 亮介¹⁾、渡邊 正輝¹⁾、中川 龍弥¹⁾、大森 智貴¹⁾、甲野 友菜¹⁾、平塚 百々香¹⁾、浅野 淳²⁾、佐々木 宣哉¹⁾

¹⁾北里大学獣医学部実験動物学研究室、²⁾鹿児島大学共同獣医学部共同獣医学科

「栄養・生理・生化学」

P-014 サツマイモ葉柄部の一過性脳虚血スナネズミに対する神経細胞保護効果

○前田 友香¹⁾、小田 朝陽²⁾、菅井 和久³⁾、藤澤 正彦²⁾、袴田 陽二²⁾

¹⁾日本獣医生命科学大学動物科学科動物栄養学教室、

²⁾日本獣医生命科学大学獣医保健看護学科生体機能学研究分野、

³⁾慶應義塾大学医学部スポーツ医学総合センター

P-015 CByB6F1-Tg (HRAS) 2Jic (tg/wt) における体重および血液データ解析

○伊藤 美穂¹⁾、下村 千恵¹⁾、奈良部 友紀²⁾、野川 滯¹⁾、水澤 卓馬³⁾、保田 昌彦³⁾、西脇 恵¹⁾

¹⁾日本クレア株式会社、²⁾株式会社ジェー・エー・シー、³⁾公益財団法人実中研

P-016 高脂肪食負荷ラットの白色脂肪細胞におけるヒスチジンと大豆イソフラボンの褐色化誘導効果

○朝日 理久¹⁾、宇田川 陽秀¹⁾、門倉 歩果¹⁾、北村 美雅¹⁾、羽鳥 さくら¹⁾、和田 颯真¹⁾、大城 玲美子¹⁾、佐野 香織²⁾、成田 隆明³⁾、清水 有紀子⁴⁾、岡村 匡史⁴⁾、藤見 峰彦¹⁾

¹⁾文教大学健康栄養学部、²⁾城西大学理学部、³⁾千葉工業大学先進工学部、

⁴⁾国立国際医療研究センター研究所

P-017 Synergistic effects of probiotics and mineral complex on alleviating atopic dermatitis in an Nc/Nga mouse model

○Yuseong Jang, Hyeon-Gi Paik, Jihye Choi, Jungkee Kwon

Department of Laboratory Animal Medicine, College of Veterinary, Jeonbuk National University

P-018 Protective effects of fermented gold kiwi against gastroesophageal reflux disease in a rat model

○Hyeon-Gi Paik, Yuseong Jang, Jihye Choi, Jungkee Kwon

Department of Laboratory Animal Medicine, College of Veterinary, Jeonbuk National University

P-019 Protective effects of broccoli stem extract on gastric injury and inflammation in rats

○Jihye Choi, Yuseong Jang, Hyeon-Gi Paik, Jungkee Kwon

Department of Laboratory Animal Medicine, College of Veterinary Medicine, Jeonbuk National University

P-020 Fermented gold kiwis relieve loperamide-induced constipation rats and improve symptoms in Humans

○Jihye Choi, Hyeon-Gi Paik, Yuseong Jang, Jungkee Kwon

Department of Laboratory Animal Medicine, College of Veterinary Medicine, Jeonbuk National University

P-021 食塩負荷を伴う肥満2型糖尿病モデルラットの降圧薬による腎保護作用：リキッドバイオマーカーによる検証

○吉村 文¹⁾、白水 貴大¹⁾、釘田 雅則¹⁾、熊本 海生航¹⁾、八代 百合子²⁾、白倉 美雨²⁾、大畑 敬一³⁾、秋江 靖樹²⁾、山口 太美雄⁴⁾、長尾 静子¹⁾

¹⁾藤田医科大学病態モデル先端医学研究センター、

²⁾シミックファーマサイエンスバイオリサーチセンター、³⁾シミックホールディングスL-FABP事業部、

⁴⁾鈴鹿医療科学大学保健衛生学部臨床検査学科

「加齢・老化」

P-022 9ヶ月齢までのC57BL/6マウスにおける成長曲線と血液生化学の亜系統差と性差

○柳井 修一¹⁾、石神 昭人^{1,2)}

¹⁾東京都健康長寿医療センター研究所実験動物施設、

²⁾東京都健康長寿医療センター研究所分子老化制御研究チーム

P-023 Exosomes derived from fatty liver exacerbate pathogenesis in age-related macular degeneration models

○Ayun Seol, Jea Sic Jeong, Ji Eun Kim, Hee Jin Song, Su Jeong Lim, Su Ha Wang, Ye Ryeong Kim, Ye Eun Ryu, Seong Cheol Park, Beum-su An, Dae Youn Hwang

Department of Biomaterials Science, Pusan National University

P-024 Post-mortem study on the incidence of pathologies in three strains of aged rats from the NCGG.

○Julio Alfonso Almunia¹⁾, Yoshiko Munesue¹⁾, Satoko Noma²⁾, Morihiro Inui²⁾, Haruka Kawasaki¹⁾, Nobuko Morikawa¹⁾, Shunsuke Yuri¹⁾, Noburo Ogiso¹⁾

¹⁾Laboratory of Experimental Animals, National Center for Geriatrics and Gerontology, ²⁾KAC Co., Ltd.

「脳・神経・行動」

P-025 Blockade of sigma-1 receptors reduces spinal peroxynitrite production following spinal cord injury in mice

Sheu-Ran Choi^{1,2)}, Nam Hyun Kim¹⁾, Silhan Lee¹⁾, ○Jang-Hern Lee²⁾

¹⁾Department of Pharmacology, Catholic Kwandong University College of Medicine,

²⁾Department of Veterinary Physiology, Research Institute for Veterinary Science and College of Veterinary Medicine, Seoul National University

P-026 演題取り消し

P-027 抗ヒトトランスフェリン受容体モノクローナル抗体のサル脳移行性評価

○深津 智樹、森本 秀人、木下 正文、今給黎 厚志、山本 隆治、高橋 健一、藺田 啓之
J C R ファーマ株式会社

P-028 ロスマリン酸はアルツハイマー病APP/PS1 マウスの行動・認知機能障害と脳アミロイド症を改善する

○小山 直基¹⁾、瀬川 辰也²⁾、前田 雅弘²⁾、Darrell Sawmiller³⁾、Terrence Town⁴⁾、森 隆¹⁾
¹⁾埼玉医科大学研究部、²⁾免疫生物研究所、³⁾南フロリダ大学、⁴⁾Terrence Town Consultant

P-029 マーモセットの行動における常設型タッチパネル課題デバイスの位置と報酬の影響についての考察

○菊池 理加、坂本 晃海、山崎 万喜、汲田 和歌子、佐々木 えりか
公益財団法人実中研

P-030 構造MRIデータにおける脳組織形態評価ツールの開発

○岡崎 美結¹⁾、畑 純一¹⁾、牟田 佳那子¹⁾、新川 翔太¹⁾、大城 日菜子¹⁾、山本 貴恵²⁾、長久保 大²⁾、西村 亮平³⁾
¹⁾東京都立大学大学院、²⁾東京大学大学院農学生命科学研究科附属動物医療センター、³⁾東京大学大学院農学生命科学研究科獣医外科学研究室

P-031 出生後の睡眠不足はマウス前頭前皮質のGABA作動性抑制性ニューロンに影響を与える

○新井 理紗¹⁾、上野 浩司¹⁾、森 祥子²⁾、北野 絵莉子²⁾、高橋 優²⁾、石原 武士²⁾
¹⁾川崎医療福祉大学医療技術学部臨床検査学科、²⁾川崎医科大学精神科学教室

P-032 rTg4510 マウスはCamKII α -tTA マウスと比べ認知機能障害、多動性、不安様行動の低下を示す

○下畑 充志¹⁾、祖父江 顕¹⁾、溝口 博之²⁾、佐原 成彦³⁾、樋口 真人³⁾、山中 宏二¹⁾
¹⁾名古屋大学環境医学研究所病態神経科学分野、
²⁾名古屋大学大学院医学系研究科医療薬学・医学部附属病院薬剤部、
³⁾量子科学技術研究機構放射線医学総合研究所脳機能イメージング研究部

P-033 マウスの生産方法が Fear conditioning test の無動時間に及ぼす効果

○山田 郁子、串田 知子、古瀬 民生、田村 勝
理化学研究所バイオリソース研究センターマウス表現型解析技術室

「解剖・組織・病理・病態」

P-034 コモンマーモセットにおける自然発症性腎症に関する疫学調査

○末永 健^{1,2)}、重野 佑布子¹⁾、佐野 千枝¹⁾、新美 君枝¹⁾、永岡 謙太郎²⁾
¹⁾理化学研究所脳神経科学研究センター研究基盤開発部門動物資源開発支援ユニット、
²⁾東京農工大学獣医生理学研究室

P-035 カニクイザルで認められた自然発生的乳癌のサブタイプ分類解析

○神生 珠光¹⁾、米田 伊吹¹⁾、中山 駿矢^{1,2)}、鯉江 洋¹⁾、伊藤-藤城 康世¹⁾、山海 直²⁾、保富 康宏²⁾、揚山 直英²⁾
¹⁾日本大学獣医生理学研究室、²⁾医薬基盤・健康・栄養研究所霊長類医科学研究センター

P-036 眼杯期に神経網膜を欠失する無眼球ラット系統

○原 菜摘
東京農業大学大学院

P-037 アカハライモリの腹部斑紋の形成と個体識別のための斑紋模様分類法の検討

○福田 勝洋、小原 実穂、山海 直

医薬基盤・健康・栄養研究所霊長類医科学研究センター

P-038 Genetic mutations on mouse related to human 3C syndrome

○Kazi Mahnaz Mehrin, Hisashi Oishi

Laboratory Animal Facility, Nagoya City University

P-039 転写因子 MAFB による断食下での白色脂肪組織のベージュ化の制御

○大木 真悠子、上野 響、Natalia Gogoleva、Zeynab Shahri、Eugenia Kumaga、濱田 理人、高橋 智

筑波大学医学医療系解剖学・発生学研究室

「繁殖・系統開発」

P-040 NOG-FcgR KO マウスの52週齢時における背景データ解析

○西脇 恵¹⁾、小倉 智幸²⁾、水澤 卓馬²⁾、保田 昌彦²⁾、高倉 彰²⁾、高橋 利一²⁾

¹⁾日本クレア株式会社、²⁾公益財団法人実中研

P-041 F1-TKm30 Tg マウスの生産性調査

○星野 拓也、小倉 智幸、高橋 利一、末水 洋志

公益財団法人実中研

P-042 性周期を同期化した雌モルモットの卵管内における受精卵の局在

○青島 拓也、高林 秀次

浜松医科大学医用動物資源支援部

「発生工学(再生医療を含む)」

P-043 Developing a novel Cas9-based conditional knock-out manner for in-vivo screening in germ cells

○Chi Lieu Kim Nguyen¹⁾, Madoka Aoki¹⁾, Woojin Kang²⁾, Fumihiro Sugiyama²⁾, Seiya Mizuno²⁾

¹⁾PhD. Program in Human Biology, School of Integrative and Global Majors, University of Tsukuba,

²⁾Laboratory Animal Resource Center and Trans-Border Medical Research Center, University of Tsukuba

P-044 2細胞期マウス胚を用いたエレクトロポレーション法による効率的ゲノム編集法の開発

○武井 則雄¹⁾、Yangxuan Wei²⁾、林 真倫那³⁾、神吉 昭子^{3,4)}、河手 久香^{3,4)}、渡部 聡⁵⁾、佐藤 正宏⁶⁾、新藤 隆行^{3,4)}、桜井 敬之^{3,4)}

¹⁾北海道大学医学研究院附属動物実験施設、²⁾河北医科大学神経科学研究センター病態生理学部門、

³⁾信州大学医学部循環病態学教室、⁴⁾信州大学バイオメディカル研究所・ライフイノベーション部門、

⁵⁾農業食品産業技術総合研究機構畜産研究部門家畜ゲノムチーム、

⁶⁾鹿児島大学先端医療開発研究センター遺伝子発現制御学分野

P-045 マウス未受精卵の-80℃保存の試み

○持田 慶司、長谷川 歩未、小倉 淳郎

理化学研究所バイオリソース研究センター

P-046 野生由来JF1系統の凍結配偶子からの垂種間交雑マウスの作出と凍結未受精卵の輸送の実例について

○長谷川 歩未¹⁾、持田 慶司¹⁾、渡邊 仁美²⁾、竹中 慎²⁾、近藤 玄²⁾、高野 友篤³⁾、中馬 新一郎³⁾、小倉 淳郎¹⁾

¹⁾ 理研バイオリソース研究センター遺伝工学基盤技術室、

²⁾ 京都大学医生物学研究所再生実験動物施設、

³⁾ 京都大学医生物学研究所再生組織構築研究部門発生エピゲノム分野

P-047 炭酸ガス制御に依存しない体外受精・体外培養系によるマウス個体の作出

○外丸 祐介¹⁾、神崎 道文²⁾、江藤 智生³⁾

¹⁾ 広島大学自然科学研究支援開発センター、²⁾ 広島大学技術センター、³⁾ 公益財団法人実中研

P-048 ラット卵子における染色体の状態が受精後の胚発生に与える影響

○中川 優貴、金子 武人

大阪公立大学獣医学部・獣医学研究科

P-049 ラットの胚性ゲノム活性化機構に関与する因子の同定

○守田 昂太郎^{1,2)}、本多 新³⁾、小倉 淳郎²⁾、浅野 雅秀¹⁾

¹⁾ 京大院医動物実験施設、²⁾ 理研BRC、³⁾ 自治医大医

P-050 シリコン組成モノリス型多孔体「マシュマロゲル」を用いた凍結試料搬送容器の開発

○大矢 康貴¹⁾、早瀬 元²⁾

¹⁾ 名古屋大学大学院医学系研究科附属医学教育研究支援センター実験動物部門、

²⁾ 物質・材料研究機構電子・光機能材料研究センター

P-051 High cleavage rate and developmental efficiency of mouse embryos cloned from embryonic stem cells

○Dinh Quoc Pham¹⁾, Michiko Hirose¹⁾, Fumio Ike¹⁾, Narumi Ogonuki¹⁾, Thuan Van Nguyen²⁾, Kimiko Inoue^{1,3)}, Atsuo Ogura^{1,3)}

¹⁾ Bioresource Engineering Division, RIKEN BioResource Research Center,

²⁾ School of Biotechnology, International University, Vietnam National University HCMC,

³⁾ Graduate School of Life and Environmental Sciences, University of Tsukuba

P-052 凍結胚を用いた2段階エレクトロポレーション法による効率的な遺伝子改変マウスの作製

○小田 佳奈子、佐々木 綾音、平澤 克哉、作間 赳法、桑原 沙耶香、笹岡 俊邦、福田 七穂

新潟大学脳研究所動物資源開発研究分野

P-053 BSA 非添加体外成熟培地を用いた体外成熟由来卵子の染色体分配能への影響

○三谷 知諒¹⁾、田中 万柚子²⁾、野田 義博³⁾、加藤 慧竜¹⁾、杉元 聖良¹⁾、柿本 夢果¹⁾、安齋 政幸^{2,4)}

¹⁾ 近畿大学生物理工学部、²⁾ 近畿大学大学院、³⁾ 東京科学大学、⁴⁾ 近畿大学先端技術総合研究所

P-054 カニクイザルにおける卵胞発育刺激中のホルモン動態による採卵数の予測

○下澤 律浩

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所霊長類医科学研究センター

P-055 マウス胚の発生ステージが卵管内胚移植および子宮内胚移植における産子への発生能に及ぼす影響

○坂口 摩姫^{1,2)}、中村 智^{1,2)}、山下 紀代子^{1,2)}、弟子丸 優果^{1,2)}、打越 喜春^{1,2)}、古上 圭輔^{1,2)}、大関 舞香^{1,2)}、安田 智穂^{1,2)}、三小田 伸之^{2,3)}、高橋 郁¹⁾、坂口 香織¹⁾、坂本 亘¹⁾、土山 修治¹⁾、中尾 聡宏¹⁾、中川 佳子¹⁾、中潟 直己³⁾、竹尾 透¹⁾

¹⁾熊本大学生命資源研究・支援センター (CARD) 資源開発分野、²⁾九動株式会社、

³⁾熊本大学生命資源研究・支援センター (CARD) 生殖工学共同研究分野

P-056 簡易ガラス化法におけるジメチルスルフォキサイドへの浸漬時間がマウス二細胞期胚の融解成績に及ぼす影響

○打越 喜春^{1,2)}、中村 智^{1,2)}、山下 紀代子^{1,2)}、坂口 摩姫^{1,2)}、弟子丸 優果^{1,2)}、古上 圭輔^{1,2)}、大関 舞香^{1,2)}、安田 智穂^{1,2)}、三小田 伸之^{2,3)}、高橋 郁¹⁾、坂口 香織¹⁾、坂本 亘¹⁾、土山 修治¹⁾、中尾 聡宏¹⁾、中川 佳子¹⁾、中潟 直己³⁾、竹尾 透¹⁾

¹⁾熊本大学生命資源研究・支援センター (CARD) 資源開発分野、²⁾九動株式会社、

³⁾熊本大学生命資源研究・支援センター (CARD) 生殖工学共同研究分野

P-057 超多重遺伝子KOマウス作製法の開発

○西村 瑞稀¹⁾、三上 夏輝²⁾、鈴木 颯³⁾、久野 朗広^{3,4)}、水野 聖哉³⁾

¹⁾筑波大学・フロンティア医科学学位プログラム、²⁾筑波大学・ヒューマンバイオロジー学位プログラム、

³⁾筑波大学・生命科学動物資源センター、⁴⁾筑波大学・解剖学発生学研究室

P-058 細菌人工染色体を用いた新規遺伝的ヒト化マウス作製技術の開発

○住井 颯汰¹⁾、加藤 花名子²⁾、三上 夏輝³⁾、水野 聖哉²⁾

¹⁾筑波大学・医療科学類、²⁾筑波大学・生命科学動物資源センター、

³⁾筑波大学・ヒューマンバイオロジー学位プログラム

P-059 マーモセット胚を用いた疑似着床胚培養への加圧の影響

○岸本 恵子¹⁾、Christopher Penfold²⁾、上岡 美智子¹⁾、Huaiyu Hu³⁾、Thorsten Boroviak²⁾、佐々木 えりか¹⁾

¹⁾実中研、²⁾Univ. of Cambridge、³⁾Upstate Med. Univ.

P-060 *Nkx2.1*-KOマウスとラット細胞を用いた異種間キメラにおける宿主遺伝型が肺発達に与える影響

○川寄 優、村田 大和、磯谷 綾子

奈良先端科学技術大学院大学器官発生工学研究室

P-061 ホフマン変調コントラスト画像を使った人工知能による着床前胚の形態的分類

○中村 和臣¹⁾、妹尾 美砂子²⁾、吉村 祐貴³⁾

¹⁾鳥取大学医学部附属病院新規医療研究推進センター、²⁾鳥取大学研究推進機構先進医療研究センター、

³⁾鳥取大学医学部統合生理学分野

P-062 KOハムスター系統の凍結保存技術の開発

○廣瀬 美智子¹⁾、長谷川 歩未¹⁾、持田 慶司¹⁾、富島 俊子¹⁾、森下 奈美²⁾、堀内 俊孝²⁾、小倉 淳郎^{1,3)}

¹⁾理研BRC、²⁾おち夢クリニック名古屋、³⁾筑波大院生命環境

「遺伝・育種・遺伝子機能」

P-063 複合型重度免疫不全マウスの遺伝的品質管理

○山本 真史、林元 展人

公益財団法人実中研ICLASモニタリングセンター

P-064 マウスNC系統の膜性増殖性糸球体腎炎発症におけるCd72遺伝子の役割

○宮坂 勇輝¹⁾、藤井 俊輔¹⁾、柴田 佑子¹⁾、吉川 欣亮²⁾、大野 民生¹⁾

¹⁾名古屋大学大学院医学系研究科・実験動物部門、²⁾東京都医学総合研究所・難聴プロジェクト

P-065 自然発症無眼球ラット、NAK/Nokhにおける表現型および遺伝学的解析

○落合 弘光¹⁾、原 菜摘¹⁾、草野 奈央¹⁾、Rahul Sk²⁾、輿石 雄一³⁾、吉川 欣亮⁴⁾、和田 健太¹⁾

¹⁾東京農業大学大学院・生物産業学研究科、²⁾東京農業大学・生物資源ゲノム解析センター、

³⁾北海道大学人獣共通感染症国際共同研究所・ワクチン研究開発部門、

⁴⁾東京都医学総合研究所・基礎医科学分野

P-066 妊娠におけるE3ユビキチンリガーゼによる小胞体関連分解機能の解明

○北野 日佳理¹⁾、三浦 紗也加¹⁾、吉村 萌花¹⁾、須藤 カツ子²⁾、熊谷 勝義³⁾、藤田 英俊¹⁾

¹⁾大阪工業大学生命工学科分子システム生物学研究室、²⁾東京医科大学、³⁾人間総合科学大学

P-067 排卵における小胞体関連分解の機能解析

○三浦 紗也加¹⁾、吉村 萌花¹⁾、須藤 カツ子²⁾、熊谷 勝義³⁾、藤田 英俊¹⁾

¹⁾大阪工業大学工学部生命工学科分子システム生物学研究室、²⁾東京医科大学、³⁾人間総合科学大学

「薬理・安全性」

P-068 HPMCミニカプセルを用いたラット経口投与における血中濃度のバラつきを抑えるための工夫

○河原 礼史、田中 祥之

沢井製薬(株)

P-069 Identification of acrolein as odor marker in a 1,2,3-trichloropropane-induced hepatotoxicity model

○Dae Youn Hwang, Ye Eun Ryu, Ji Eun Kim, Hee Jin Song, Ayun Seol, Su Jeong Lim, Su ha Wang, Seong Cheol Park, Ye Ryeong Kim

Department of Biomaterials Science, Pusan National University

P-070 Role of *Gentiana macrophylla* P. as therapeutic agents in blue light-induced macular degeneration

○Su Ha Wang, Ji Eun Kim, Hee Jin Song, Ayun Seol, Su Jeong Lim, Seong Cheol Park, Ye Eun Ryu, Ye Ryeong Kim, So Hae Park, Dae Youn Hwang

Department of Biomaterials Science, Pusan National University

P-071 固形がんにおける増幅がん遺伝子を標的とした治療法開発

○高取 敦志、頼 笑疑、養田 裕行、篠崎 喜脩

千葉県がんセンター研究所

P-072 げっ歯類における二重エネルギーX線吸収測定法を用いた骨格筋および骨代謝異常の非侵襲的モニタリング

○岸 和寿¹⁾、後藤 もも¹⁾、水流 功春²⁾、堀 正敏¹⁾

¹⁾東京大学大学院農学生命科学研究科獣医薬理学研究室、²⁾プライムテック株式会社

P-073 血漿中カルボキシルエステラーゼ1c欠損ヒト化肝臓TK-NOGマウスの作製

○上原 正太郎、樋口 裕一郎、米田 直央、末水 洋志

公益財団法人実中研

P-074 卵巣摘出マウスを用いた子宮肥大試験による内分泌かく乱化学物質のスクリーニング評価

○五十嵐 智女¹⁾、相田 麻子¹⁾、横田 理¹⁾、西村 拓也¹⁾、高橋 祐次¹⁾、桑形 麻樹子^{1,2)}、北嶋 聡¹⁾

¹⁾国立医薬品食品衛生研究所・安全性生物試験研究センター・毒性部、

²⁾帝京平成大学健康医療スポーツ学部

「微生物・感染・免疫」

P-075 i-GONAD法を用いた免疫不全PRKDCノックアウトハムスターの作製と特性評価

○高林 秀次、飯島 健太、青島 拓也

浜松医科大学

P-076 実験動物におけるマウスノロウイルス抗体調査

○石田 智子、田中 舞、森田 華子、富山 友里奈、林元 展人

公益財団法人実中研ICLASモニタリングセンター

P-077 わが国の実験動物施設におけるマウスとラットの現在の微生物学的状況

○森田 華子、田中 舞、富山 友里奈、山本 真史、石田 智子、林元 展人

実中研

P-078 PBL-NOG-hIL-4-Tgマウスに生着したヒトリンパ球の動態解析

○大島 志乃¹⁾、山田 壮我¹⁾、廣田 綾子²⁾、片野 風¹⁾、津田 万里³⁾、安田 敦⁴⁾、伊藤 亮治⁵⁾、
馬淵 智生²⁾、石本 人士⁶⁾、椎名 隆^{1,7)}、亀谷 美恵^{1,7)}

¹⁾東海大学医学部基礎医学系分子生命科学、²⁾東海大学医学部専門診療学系皮膚科学、

³⁾東海大学医学部専門診療学系緩和医療学、⁴⁾東海大学医学部専門診療学系腎内分泌代謝内科学、

⁵⁾実中研、⁶⁾東海大学医学部専門診療学系産婦人科学、⁷⁾東海大学先進生命科学研究所

P-079 マウスの表在性Corynebacterium属菌とStaphylococcus属菌の疫学調査

○富山 友里奈¹⁾、森田 華子¹⁾、田中 舞¹⁾、保田 昌彦²⁾、林元 展人¹⁾

¹⁾公益財団法人実中研ICLASモニタリングセンター、²⁾公益財団法人実中研病理解析センター

P-080 ICLASモニタリングセンターにおける抗体検査用の抗原・抗血清の国際的な頒布活動について

○田中 舞、石田 智子、林元 展人

公益財団法人実中研ICLASモニタリングセンター

P-081 掃除機を利用した微生物モニタリングの有効性

○佐古 典久¹⁾、直井 実穂²⁾、中村 孝博²⁾、市瀬 誠一³⁾、加藤 克彦¹⁾

¹⁾ジャクソン・ラボラトリー・ジャパン株式会社、²⁾明治大学農学部動物生理学研究室、

³⁾EPトレーディング株式会社

P-082 免疫系ヒト化マウスを用いたワクチン評価系の開発

○大野 裕介、後藤 元人、高橋 利一、伊藤 亮治

公益財団法人実中研

P-083 CD28 シグナル依存的なT細胞の活性化を制御するカルボラン化合物の機能評価

○小川 修平¹⁾、邵 玉洁³⁾、三浦 一輝³⁾、越智 咲希²⁾、吉森 篤史⁴⁾、中村 浩之³⁾、織田 昌幸²⁾

¹⁾東京理科大学、²⁾京都府立大学大学院生命環境科学研究科、³⁾東京科学大学生命理工学院、

⁴⁾株式会社社理論創薬研究所

「疾患モデル」

P-084 羨望様環境はマウスの不安様行動を増加させる

○上野 浩司¹⁾、北野 絵莉子²⁾、森 祥子²⁾、高橋 優²⁾、石原 武士²⁾

¹⁾川崎医療福祉大学医療技術学部臨床検査学科、²⁾川崎医科大学精神科学教室

P-085 ゲノム編集を用いて作製したアルポート症候群モデルラットの機能解析

○北村 真優美、難波 真澄、小林 朋絵、古家野 孝行、平松 寛明、松山 誠

重井医学研究所分子遺伝部門

P-086 Characterization of age-related macular degeneration in complement component 3 knock out mice

○Hee Jin Song, Ji Eun Kim, Ayun Seol, Su Jeong Lim, Su Ha Wang, Seong Cheol Park, Ye Eun Ryu, Ye Ryeong Kim, Dae Youn Hwang

Department of Biomaterials Science, Pusan National University

P-087 Antioxidant-related laxative effects of green pine cones in a loperamide-induced constipation model

○Seong Cheol Park, Hee Jin Song, Ji Eun Kim, Ayun Seol, Su Jeong Lim, Su Ha Wang, Ye Eun Ryu, Ye Ryeong Kim, Dae Youn Hwang

Department of Biomaterials Science, Pusan National University

P-088 日本クレア生産の筋ジストロフィーモデルC57BL/10-*mdx*マウスの26週齢における背景データ解析

○下村 千恵¹⁾、伊藤 美穂¹⁾、奈良部 友紀²⁾、水澤 卓馬³⁾、保田 昌彦³⁾、瀧崎 健二¹⁾、矢崎 薫¹⁾、半田 昌明¹⁾

¹⁾日本クレア株式会社、²⁾株式会社ジェー・エー・シー、³⁾公益財団法人実中研

P-089 プロゲステロンによるPC3(ヒト前立腺癌)の抗腫瘍効果の解析

○星野 優希¹⁾、大島 志乃¹⁾、山田 壮我¹⁾、尾上 潮音¹⁾、三川 ヒメリ¹⁾、津田 万里³⁾、安田 敦⁴⁾、伊藤 亮治²⁾、椎名 隆¹⁾、亀谷 美恵^{1,2)}

¹⁾東海大学医学部基礎医学系分子生命科学、²⁾実中研、³⁾東海大学医学部専門診療学系緩和医療科学、

⁴⁾東海大学医学部専門診療学系腎内分泌代謝内科

P-090 てんかん様発作直後のデグーの血中微量元素動態の解明

○吉村 琉那¹⁾、伊海 結貴¹⁾、名倉 悟郎²⁾、篠原 明男²⁾、越本 知大²⁾

¹⁾宮崎大学医学獣医学総合研究科、²⁾宮崎大学フロンティア科学総合研究センター生物資源分野

**P-091 Age-dependent phenotypical changes for alzheimer's disease in C57BL/6-Tg (NSE-hPS2*^{N141I})
Korl mice**

○Ye Ryeong Kim¹⁾, Ki Chun Kwon²⁾, Ji Eun Kim¹⁾, Hee Jin Song¹⁾, Ayun Seol¹⁾, Su Jeong Lim¹⁾,
Su Ha Wang¹⁾, Seong Cheol Park¹⁾, Ye Eun Ryu¹⁾, Jun Young Choi¹⁾, Young Suk Jung³⁾,
Joon Yong Cho²⁾, Dae Youn Hwang¹⁾

¹⁾Department of Biomaterials Science, Pusan National University,

²⁾Exercise Biochemistry Laboratory, Korea National Sport University,

³⁾Department of Pharmacy, Pusan National University

P-092 肥満2型糖尿病モデルKK-Ayマウスの腎臓および肝臓に対する高脂肪食(HFD32)負荷の影響について

○柏井 正志¹⁾、瀧崎 健二¹⁾、青山 裕司¹⁾、井上 みく¹⁾、太田 毅²⁾、西脇 恵³⁾、下村千恵³⁾、
伊藤美穂³⁾、篠原 雅巳³⁾

¹⁾日本クレア株式会社石部生育場、²⁾京都大学大学院農学研究科応用生物科学専攻生体機構分野、

³⁾日本クレア株式会社特性検査管理室

P-093 Foxe3ハイボモルフによる白内障に異なる感受性を示すコンジェニック系統

○石田 有輝¹⁾、高橋 諒¹⁾、古郡 真宗¹⁾、吉川 欣亮²⁾、和田 健太¹⁾

¹⁾東京農業大学大学院・生物産業学研究科、²⁾東京都医学総合研究所・基礎医科学分野

P-094 ES-2移植ヒト担癌マウスにおけるLipo-P4-aPDL1の抗腫瘍効果

○宮澤 麻里子¹⁾、山田 壮我²⁾、星野 優希²⁾、大島 志乃²⁾、平澤 猛¹⁾、百瀬 浩晃¹⁾、石本 人士¹⁾、
亀谷 美恵²⁾

¹⁾東海大学医学部専門診療学系産婦人科学、²⁾東海大学医学部基礎医学系分子生命科学

P-095 カニクイザルにおいて家系性を認めた肥大型心筋症の解析

甲斐 大地¹⁾、中山 駿矢^{1,2)}、米田 伊吹¹⁾、山海 直²⁾、保富 康宏²⁾、鯉江 洋¹⁾、揚山 直英²⁾

¹⁾日本大学生物資源科学部獣医学科、²⁾医薬基盤・健康・栄養研究所霊長類医科学研究センター

P-096 Presenilin1遺伝子改変マーモセットの作出と解析

○汲田 和歌子¹⁾、笹栗 弘貴²⁾、佐藤 賢哉¹⁾、大浦 奈津希¹⁾、関 布美子³⁾、西道 隆臣²⁾、
佐々木 えりか¹⁾

¹⁾公益財団法人実中研マーモセット医学生物学研究部、

²⁾理化学研究所脳神経科学研究センター神経老化制御研究チーム、

³⁾公益財団法人実中研バイオイメージングセンター

P-097 Characterization of luminescent endometriosis mouse model

○Nanda Yuli Rahmawati^{1,2)}, Tra Thi Huong Dihn³⁾, Kyoko Ikeda⁴⁾, Tomona Oikawa⁴⁾, Akiko Shinogi⁴⁾,
Masayo Kadota²⁾, Masaru Tamura⁴⁾, Takanori Amano³⁾, Atsushi Yoshiki^{2,5)}

¹⁾Graduate School of Comprehensive Human Sciences, University of Tsukuba,

²⁾Experimental Animal Division, RIKEN BRC,

³⁾Next Generation Human Disease Human Model Team, RIKEN BRC,

⁴⁾Mouse Phenotype Analysis Division, RIKEN BRC,

⁵⁾School of Integrative and Global Majors, University of Tsukuba

P-098 サル化子宮内膜症モデルマウスの確立における細胞移植の最適化

○金子 萌美¹⁾、辻森 隆太郎¹⁾、早田 駿太郎¹⁾、稲葉 花¹⁾、塚本 篤士¹⁾、中村 紳一郎^{1,2)}

¹⁾麻布大学実験動物学研究室、²⁾滋賀医科大学動物生命科学センター

P-099 ガラクトース転移酵素コンディショナルノックアウトマウスを用いたIgA腎症発症機構の解析

馬場 智子、○成瀬 智恵、松崎 朋子、Xuchi Pan、浅野 雅秀

京都大学大学院医学研究科

P-100 C型レクチン受容体の欠損は中枢神経系自己免疫疾患の発症につながる

○海部 知則¹⁾、藤岡 篤司¹⁾、岩倉 洋一郎²⁾、中村 晃¹⁾

¹⁾東北医科薬科大学医学部免疫学教室、²⁾東京大学大学院農学生命科学研究科実験動物学研究室

P-101 老化促進モデルマウス SAMP1 における濾胞ヘルパーT細胞動態

○川田 耕司

産業医科大学動物研究センター

P-102 難病マウスライブラリの構築：その3、神経疾患関連遺伝子ノックアウトマウス

○鈴木 治、内尾 こずえ、佐々木 光穂、土井 悠子、神村 麻友、鎌田 春彦

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所

P-103 FVB/N系統とC57BL/6系統における腎症感受性の比較

○中川 龍哉¹⁾、渡邊 正輝¹⁾、中西 亮介¹⁾、岡村 匡史²⁾、佐々木 宣哉¹⁾

¹⁾北里大学獣医学部実験動物学研究室、²⁾国立国際医療研究センター研究所

P-104 IARS1欠損型変異マウスの表現型解析

○渡辺 悠哉¹⁾、渡邊 正輝¹⁾、穴戸 皓也¹⁾、岡村 匡史²⁾、安藤 亮³⁾、佐々木 宣哉¹⁾

¹⁾北里大学獣医学部実験動物学研究室、²⁾国立国際医療研究センター研究所、

³⁾北里大学獣医学部獣医病理学研究室

「バイオリソース」

P-105 第5期NBRPラットの後半に向けての取り組み

○浅野 雅秀、守田 昂太郎、井橋 俊哉、葩島 旭、桃嶋 克哉、Birger Voigt、中西 聡、中根 良文、長尾 朋美、森田 健斗、和島 沙季、橋本 優美、大野 幹雄、成瀬 智恵

京都大学医学研究科附属動物実験施設

P-106 ラット研究を促進する二つのプラットフォーム事業の取り組み—NBRP-RatとAdAMS

○竹鶴 裕亮¹⁾、石田 紗恵子¹⁾、服部 晃佑¹⁾、山内 祐子¹⁾、飯田 龍哉¹⁾、吉見 一人^{1,2)}、真下 知士^{1,2)}

¹⁾東京大学医科学研究所実験動物研究施設先進動物ゲノム研究分野、

²⁾東京大学医科学研究所システム疾患モデル研究センターゲノム編集研究分野

P-107 CARDマウスバンクにおける遺伝子改変マウスの輸送に関する情報共有

○坂口 香織¹⁾、高橋 郁¹⁾、中村 智^{1,2)}、山下 紀代子^{1,2)}、坂口 摩姫^{1,2)}、弟子丸 優果^{1,2)}、打越 喜春^{1,2)}、古上 圭輔^{1,2)}、大関 舞香^{1,2)}、安田 智穂^{1,2)}、三小田 伸之^{2,3)}、土山 修治¹⁾、坂本 亘¹⁾、中尾 聡宏¹⁾、中川 佳子¹⁾、中潟 直己³⁾、竹尾 透¹⁾

¹⁾熊本大学生命資源研究・支援センター (CARD) 資源開発分野、²⁾九動株式会社、

³⁾熊本大学生命資源研究・支援センター (CARD) 生殖工学共同研究分野

P-108 遺伝子改変マウスの系統管理を目的としたCARDマウスバンクの利用

○高橋 郁¹⁾、坂口 香織¹⁾、中村 智^{1,2)}、山下 紀代子^{1,2)}、坂口 摩姫^{1,2)}、弟子丸 優果^{1,2)}、打越 喜春^{1,2)}、古上 圭輔^{1,2)}、大関 舞香^{1,2)}、安田 千穂^{1,2)}、三小田 伸之^{2,3)}、坂本 亘¹⁾、土山 修治¹⁾、中尾 聡宏¹⁾、中川 佳子¹⁾、中潟 直己³⁾、竹尾 透¹⁾

¹⁾熊本大学生命資源研究・支援センター (CARD) 資源開発分野、²⁾九動株式会社、

³⁾熊本大学生命資源研究・支援センター (CARD) 生殖工学共同研究分野

P-109 精子膜上チオール基の酸化による精子の運動性および受精率の低下

○中尾 聡宏¹⁾、白角 一樹¹⁾、田村 香菜¹⁾、古閑 礼涼¹⁾、池田 真由美²⁾、異島 優³⁾、中潟 直己⁴⁾、竹尾 透¹⁾

¹⁾熊本大学生命資源研究・支援センター (CARD) 資源開発分野、

²⁾和歌山県立医科大学薬学部薬剤学研究室、³⁾京都薬科大学薬剤学分野、

⁴⁾熊本大学生命資源研究・支援センター (CARD) 生殖工学共同研究分野

P-110 理研BRCにおけるバイオリソース検索システムの機能拡張

○白田 大輝、櫛田 達矢、高田 豊行、榎屋 啓志

理化学研究所バイオリソース研究センター

「その他の分類」

P-111 Identification of novel odor markers related to aging in older ICR mice

○Ji Eun Kim, Hee Jin Song, Ayun Seol, Su Jeong Lim, Su Ha Wang, Seong Cheol Park, Ye Eun Ryu, Ye Ryeong Kim, Dae Youn Hwang

Department of Biomaterials Science, Pusan National University

P-112 Mechanism of inhaled microplastics as cause of chronic constipation

○Su Jeong Lim, Ji Eun Kim, Hee Jin Song, Ayun Seol, Su Ha Wang, Seong Cheol Park, Ye Eun Ryu, Ye Ryeong Kim, Sungbaek Seo, Dae Youn Hwang

Department of Biomaterial Sciences, Pusan National University

P-113 人工知能を用いた動物の表情データ収集ツールの開発

○小澤 直光¹⁾、酒井 悠輔²⁾、坂井 勇介¹⁾、越本 知大²⁾、塩澤 誠司¹⁾

¹⁾久留米大学医学部疾患モデル研究センター、

²⁾宮崎大学フロンティア科学総合研究センター生物資源分野

P-114 社内外での動物実験に関するサイエンスコミュニケーションの例

○渡辺 千絵、香取 優希、川村 清隆

共立製薬株式会社

P-115 エンドトキシン不活化と過酸化水素除去を両立する新規技術の実用性検討

○篠原 晴香¹⁾、糠信 美里¹⁾、佐藤 賢哉¹⁾、中村 八寿雄²⁾、靱島 由二²⁾、佐々木 えりか¹⁾

¹⁾公益財団法人実中研、²⁾三浦工業株式会社メディカル横浜ラボ

P-116 ATP検査法から見たブタ飼育ケージの洗浄用具と洗浄効果について

○橋本 亜壽加、篠木 忠、薄井 典子、相原 紀子、Marina Bezeha、五十嵐 智美、小林 幸子、野内 律彰、水島 友子、関 あずさ

一般財団法人ふくしま医療機器産業推進機構

P-117 室内飼育下カニクイザルの生殖年齢と寿命

○小原 実穂、サビツカ エディタ、山海 直

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所霊長類医科学研究センター

P-118 Acute and subacute toxicity of cardiac forte gold, a veterinary cardiovascular drug in rats

○Eun-Sol Seong^{1,2)}, Su-Cheol Han^{1,2)}, Ji Hee Choi³⁾, Young Kook You³⁾, Jeong Ho Hwang^{1,2)}

¹⁾Center for Companion Medicine and Foods, Korea Institute of Toxicology,

²⁾Center for Large Animals Convergence Research, Division of Jeonbuk Advanced Bio Research, Korea Institute of Toxicology,

³⁾Careside Co., Ltd.

ランチョンセミナー LS-01(協賛企業：(株)ケー・エー・シー)

5月21日(水) 12:15 - 13:15 会議室1：コンベンションホール(コンベンションセンター 3F ホールA4)

座長：小山 公成((株)ケー・エー・シー)

坂本 雄二((株)ケー・エー・シー)

テーマ：研究施設における飼育動物に対する獣医学的アプローチ

演題1：犬山のサル類動物病院の一日

演者1：兼子 明久(京都大学ヒト行動進化研究センター)

演題2：千寿製薬におけるげっ歯類及びウサギの獣医学的ケア

演者2：山田 康太郎(千寿製薬(株)総合研究所)

ランチョンセミナー LS-02(協賛企業：(株)夏目製作所)

5月21日(水) 12:15 - 13:15 第2会場：セカンドホール(交流センター 3F 会議ホール)

座長：小川 哲平((株)夏目製作所)

演題：夏目製作所の新提案 IVCの新しい選択肢

演者：藤澤 修平((株)夏目製作所)

ランチョンセミナー LS-03(協賛企業：ジャクソンラボラトリージャパン(株))

5月21日(水) 12:15 - 13:15 第3会場(交流センター 3F 第3会議室)

座長：内田 あや(ジャクソン・ラボラトリー・ジャパン(株) Technical Information Services)

演題：こっそり復習したいマウスの基礎 ～命名法からコロニー管理～

演者：田淵 紗和子(ジャクソン・ラボラトリー・ジャパン(株) Technical Information Services)

ランチョンセミナー LS-04(協賛企業：Avidity Science(株))

5月21日(水) 12:15 - 13:15 第4会場(交流センター 3F 第4会議室)

座長：杉村 良一(Avidity Science(株))

演題：次世代IVCシステムの革新 -AIと機械学習を活用した実験動物のモニタリング(仮)

演者：未定(未定)

ランチョンセミナー LS-05(インビボサイエンス(株))

5月22日(木) 12:15 - 13:15 会議室1：コンベンションホール(コンベンションセンター 3F ホールA4)

座長：水澤 卓馬(実中研 動物資源技術センター)

演題：実中研のライブイメージング技術の紹介 3Rを考慮したMRI, マイクロX線CTを使用した動物実験の提案

演者：小牧 裕司(実中研 バイオイメージングセンター)

ランチョンセミナー LS-06(三浦工業(株))

5月22日(木) 12:15 - 13:15 第2会場：セカンドホール(交流センター 3F 会議ホール)

座長：吉見 一人(東京大学医科学研究所)

演題：遺伝子改変マウスセットの最新動向および動物作出関連器材の滅菌の効率化

演者：佐藤 賢哉(実中研)

ランチョンセミナー LS-07(ジャクソンラボラトリージャパン(株))

5月22日(木) 12:15 - 13:15 第3会場(交流センター 3F 第3会議室)

座長：中野 翼(ジャクソン・ラボラトリー・ジャパン(株) モニタリングセンター)

演題：微生物モニタリングを岡動物検査からホコリを使ったPCR検査に変更して感じた良かった点と今後の課題

演者：渡邊 利彦(中外製薬(株)研究本部)

ランチョンセミナー LS-08(日本エスエルシー(株))

5月22日(木) 12:15 - 13:15 第4会場(交流センター 3F 第4会議室)

座長: 堀米 永一 (PMIニュートリションインターナショナル)

演題: 世界で使われている LabDiet® と TestDiet® について

演者: George Nugent (PMIニュートリションインターナショナル)

ランチョンセミナー LS-09(日本クレア(株))

5月23日(金) 12:15 - 13:15 第3会場(交流センター 3F 第3会議室)

座長: 伊藤 守 ((公財) 実中研)

演題: CRISPR-Cas3 による免疫不全ラットの開発と移植医療への応用

演者: 真下 知士 (東京大学医科学研究所)